履修要項

Ⅰ　授業科目の構成 …… 13
Ⅱ　単位の計算方法 …… 13
Ⅲ　卒業に必要な単位数 …… 14
Ⅳ　進級に必要な単位数等 …… 16
Ⅴ　履　修　登　録 …… 16
Ⅵ　授　　業 …… 17
Ⅶ　学　籍　異　動 …… 19
Ⅷ　試　　験 …… 19
Ⅸ　単位の修得及び学業成績 …… 21
Ⅹ　単位互換制度 …… 23
Ⅺ　文部科学大臣が定める学修による単位認定 …… 24
Ⅻ　海外研修制度 …… 24

授業科目及び履修方法

Ⅰ　教養教育科目，外国語教育科目 …… 27
Ⅱ　外国語教育科目 …… 35
Ⅲ　他学科開放科目 …… 39
Ⅳ　表現文化学科　専門教育科目 …… 44
Ⅴ　実践英語学科　専門教育科目 …… 51
Ⅵ　総合歴史学科　専門教育科目 …… 59

この履修要覧は入学年度（新入生）にのみ配付いたします。新入生の皆さんは，この履修要覧を卒業するまで大切に保管してください。（※紛失しても再配付はできません。）

この履修要覧には，学則等の規則や，本学学生として在学中に必要な事項が記載されていますので，よく読んでください。

なお，履修要覧の記載に変更が生じた場合は，掲示等でお知らせします。

就実大学・就実短期大学
教務課
〒703-8516
岡山市中区西川原1－6－1
TEL：086－271－8120
FAX：086－271－8119
E-mail：kyoumu@shujitsu.ac.jp

平成29年４月１日発行

履修要項

授業科目の履修に関して，学則に明示されていない細目は，この履修要項に定めるところによる。

Ⅰ　授業科目の構成

1．本学において開設する科目は，次のとおりである。

⑴　総合教養教育科目

⑵　外国語教育科目

⑶　専門教育科目

⑷　諸課程に関する科目

a　教職に関する科目　　b　博物館に関する科目　　c　図書館に関する科目

d　司書教諭に関する科目　　e　社会教育に関する科目　　f　医療秘書に関する科目（2014年度生以降適用）

2．これらの授業科目は，履修の方法により，次のように分類される。

⑴　必修科目　必ず履修しなければならない授業科目で，この必修科目のすべての単位を修得しなければ，卒業することはできない。

⑵　選択必修科目　定められた枠の中から各自が選択履修し，所定の単位数を必ず修得しなければならない授業科目である。

⑶　選択科目　各自が自由に選択し履修する授業科目である。ただし，学則に定める卒業に必要な単位数を充足するように選択履修しなければならない。

Ⅱ　単位の計算方法

各授業科目の単位数は，次の基準により計算するものとする。

1．講義については，15時間の授業をもって１単位とする。

2．演習については，15時間から30時間の授業をもって１単位とする。

3．実験、実習及び実技等については，30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

4．卒業研究については，これに必要な学修等を考慮して，８単位とする。

Ⅲ　卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには，それぞれの学科所定の科目・単位を次表のとおり修得しなければならない。

2015年度生以降

学科／授業科目区分	表現文化学科			実践英語学科			総合歴史学科		
総合教養教育科目		選	20		選	20		選	20
総合教養教育科目小計			20			20			20
外国語教育科目	General English 1～4	必	4	English Reading Ⅰ～Ⅳ	必	4	General English 1～4	必	4
	英語以外の外国語	選	2	Oral Communication Ⅰ～Ⅳ	必	4	英語以外の外国語	選	4
				英語以外の外国語	選	4			
外国語教育科目小計			6			12			8
専門教育科目	文章表現	必	2	英文法Ⅰ・Ⅱ	必	4	総合歴史まなび入門	必	2
	口頭表現	必	2	インターネット英語Ⅰ・Ⅱ	必	4	入門	選必	10
	基礎ゼミナール	必	2	Extensive Reading Ⅰ	必	2	講読	選必	8
	表現文化学入門	必	2	Extensive Reading Ⅱ	必	2	歴史人物,地域史	選必	4
	入門	選必	8	英語の発音	必	2	吉備特論	選必	4
	古典文学史	選必	6	英語表現演習Ⅰ～Ⅳ	必	16	考古学,古文書		
	近現代文学史			イギリス文化研究入門	必	2	研究	選必	8
	日本語史			アメリカ文化研究入門	必	2	演習	選必	4
	言語表現史			ライティング演習Ⅰ～Ⅳ	必	8	講義	選必	12
	身体表現史			検定英語Ⅰ・Ⅱ	必	4	ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	8
	研究	選必	8	英文講読Ⅰ～Ⅳ	必	8	卒業研究	必	8
	講義	選必	8	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	必	4			
	表現文化ゼミナールⅠ～Ⅵ	必	12	英語コミュニケーション1～8	選必A	ABCのいずれか8			
	卒業研究	必	8	異文化理解と交流1・2	選必B				
	上記以外	選	10	イギリス文化研究1～3					
				アメリカ文化研究1～3					
				通訳演習1～4	選必C				
				翻訳演習1～4					
				ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	8			
				卒業研究	必	8			
専門教育科目小計			68			82			68
自由選択※			30			10			28
合計	上記を含め124単位以上								

※自由選択とは，総合教養教育科目，外国語教育科目，及び各学科専門教育科目の未履修科目のほか，他学科専門教育科目の開放科目から選択。（単位互換も含む。）

2014年度生

学科／授業科目区分	表現文化学科			実践英語学科			総合歴史学科		
総合教養教育科目		選	20		選	20		選	20
総合教養教育科目小計			20			20			20
外国語教育科目	General English 1～4	必	4	English Reading Ⅰ～Ⅳ	必	4	General English 1～4	必	4
	英語以外の外国語	選	2	Oral Communication Ⅰ～Ⅳ	必	4	英語以外の外国語	選	4
				英語以外の外国語	選	4			
外国語教育科目小計			6			12			8
専門教育科目	文章表現	必	2	英文法Ⅰ・Ⅱ	必	4	入門	選必	10
	口頭表現	必	2	インターネット英語Ⅰ・Ⅱ	必	4	講読	選必	8
	基礎ゼミナール1	必	2	Extensive Reading Ⅰ	必	2	歴史人物,地域史	選必	4
	基礎ゼミナール2	必	2	Extensive Reading Ⅱ	必	2	吉備特論	選必	4
	入門	選必	8	英語の発音	必	2	考古学,古文書		
	古典文学史	選必	6	英語表現演習Ⅰ～Ⅳ	必	16	研究	選必	8
	近現代文学史			イギリス文化研究入門	必	2	演習	選必	4
	日本語史			アメリカ文化研究入門	必	2	講義	選必	12
	言語表現史			ライティング演習Ⅰ～Ⅳ	必	8	ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	8
	身体表現史			検定英語Ⅰ・Ⅱ	必	4	卒業研究	必	8
	研究	選必	8	英文講読Ⅰ～Ⅳ	必	8			
	講義	選必	8	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	必	4			
	表現文化ゼミナールⅠ～Ⅵ	必	12	英語コミュニケーション1～8	選必A	ABCのいずれか8			
	卒業研究	必	8	異文化理解と交流1・2	選必B				
	上記以外	選	10	イギリス文化研究1～3					
				アメリカ文化研究1～3					
				通訳演習1～4	選必C				
				翻訳演習1～4					
				ゼミナールⅠ～Ⅳ	必	8			
				卒業研究	必	8			
専門教育科目小計			68			82			66
自由選択※			30			10			30
合計	上記を含め124単位以上								

※自由選択とは，総合教養教育科目，外国語教育科目，及び各学科専門教育科目の未履修科目のほか，他学科専門教育科目の開放科目から選択。（単位互換も含む。）

Ⅳ　進級に必要な単位数等

1．学生は，３・４年次生及び長期履修学生を除き，当該年次に卒業要件科目を20単位以上修得しなければ，上位年次に進級できない。

2．当該年度に休学期間がある場合には，原則としてその年度に10単位以上修得していなければ進級できない。なお，休学期間がある場合の措置は，在学中１回限りの適用とする。

3．長期履修学生は，４年次生を除き，前回の進級（１年次は入学）以後通算して卒業要件単位科目を20単位以上修得しなければ，上位年次に進級できない。

4．進級のための再試験は行わない。

Ⅴ　履　修　登　録

1．履修登録上の注意事項

⑴　授業科目の履修は，学則第19条の規定に従って，各年次に履修すべき授業科目を考慮して計画を立てること。

⑵　各年次での履修登録単位数は，**前期・後期を通じて，最高48単位を超えてはならない。**ただし，諸資格課程に関する科目等の単位数はこの制限に含めない。

⑶　一度登録した授業科目の変更は後期の追加登録及び削除以外許されないので，履修登録の際には慎重に履修計画を立てることが必要である。

⑷　登録した授業科目は，途中で放棄することなく必ず履修し，試験を受けなければならない。途中で放棄したり，試験を受けなかった場合は不合格となる。

⑸　クラス指定あるいは学科指定のある授業科目は，必ず指定された時間に履修しなければならない。

⑹　特定の授業科目及び特定の教室を使用する授業科目（英語，情報処理，書道等）については，履修人数を制限する場合がある。

⑺　第１年次に配当されている授業科目は，第１年次に履修することが望ましい。その他の年次においても同様である。

⑻　各年次とも，上位年次に配当されている授業科目を履修することはできない。

⑼　同一時限に２科目を重複して登録受講することはできない。

⑽　過年度に，合格点を得た科目を再度登録することはできない。ただし，重複履修可の科目は除く。

⑾　前期・後期を通じて，48単位（１年間に履修登録できる単位数の最高限度）を超えない範囲で後期追加登録をすることができる。なお，後期追加登録時に，後期科目の削除も認められる。

2．登録申請並びに手続方法

学生は，後期履修する授業科目を含め，各年次において単位を修得しようとする授業科目について，各自登録しなければならない。授業科目の登録は，下記の要領に従って年度の当初に行うこと。この登録を怠ると，その年度の授業及び試験を受け単位を修得することができないので十分注意すること。

⑴　年度始めのオリエンテーション（「履修指導」）の際，担当教員から説明を聞き，「時間割表」及び「履修要覧」（授業科目表・履修上の注意）を参照して，各年度に履修しようとする授業科目を決定すること。

⑵　この全授業科目（必修，選択必修，選択，集中，資格課程）はすべて年度始めのオリエンテーション履修指導時に配付される「履修登録下書き用紙」に記入すること。

⑶　指定された日時に「履修登録下書き用紙」を持参し，情報教室のパソコンを使って履修希望科目の申請をすること（Web履修申請）。

⑷　履修申請した科目について，後日「確認リスト」を配付するので，指定された場所で，履修登録もれや誤りがないかを確認すること。

　１つでも履修登録もれや誤記を発見したら，指定された情報教室のパソコンで訂正すること（後日教務課で再確認）。もし履修登録もれや誤記を訂正しないまま放置しておくと，授業・試験を受けても単位認定されないので注意すること。

⑸　「確認リスト」に間違いがなければ，氏名の右横に印鑑を押して提出。**その後の追加・削除・訂正には一切応じない。**

⑹　後期科目追加登録（削除）希望者は，指定された日に手続を行うこと（詳細は掲示板で伝える）。

Ⅵ 授　　業

1．授業時間

平常の授業は，時間割表に従って次の時間で行われる。

Ⅰ時限　　9：10　～　10：40
Ⅱ時限　　10：50　～　12：20
Ⅲ時限　　13：10　～　14：40
Ⅳ時限　　14：50　～　16：20
Ⅴ時限　　16：30　～　18：00
Ⅵ時限　　18：10　～　19：40

2．休　　講

授業担当者がやむを得ない事情で授業を休講する場合は，事前に掲示により伝達する。休講掲示がなく，始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は，教務課へ申し出て指示を受けること。

3．臨時休講　　警報発令の際の取り扱い

午前７時に岡山県岡山地域に暴風警報または特別警報が発令されている場合は臨時に休講とする（大雨警報・洪水警報の場合は休講としない）。ただし，午前10時までに暴風警報が解除された場合は，Ⅲ時限から授業を実施する。

休講となった場合には，後日補講する。

4．欠　　席

⑴　欠席届

授業を欠席する場合は，「欠席届」を授業科目担当者になるべく事前に届け出る。もし，事前に届けられなかった場合は，事後すみやかに届け出ること。

⑵　長期欠席届

７日以上の病気欠席の場合は，医師の診断書を添えて所定の用紙に記入し，教務課に届け出ること。

⑶　公欠届

公欠届は下記の場合に限り，所定の用紙に記入し，教務課に届け出る。

※ただし，補講および集中講義については，原則として公欠は認められない。

①　諸課程の単位修得のための実習期間など。

②　「学校保健安全法」及び「同法施行規則」及び本学規定に定める感染症（下記参照）に罹患した場合。（出席停止期間証明書または診断書が必要）

・下表の感染症と診断された場合には，速やかに教務課まで電話で報告すること。

・**治癒後**に受診機関より「出席停止期間証明書」または「診断書」の交付を受け，授業公欠届（教務課申請用）とともに届け出る。

※その他の感染症以外の診断書については病名・出席停止期間の記載があるものに限る。

※［第３種］のその他の感染症は「出席停止期間証明書」（本学様式）に限る。

※授業公欠届（教務課）及び出席停止期間証明書は，履修要覧巻末または学内専用ページ（Web）からダウンロードすること。

感染症についての出席停止期間の基準

学校保健安全法施行規則（平成27年1月21日改正）

感染症の種類		出席停止期間の基準 （以下の基準に基づき、主治医が判断する）
［第１種］	エボラ出血熱	治癒するまで
	クリミア・コンゴ出血熱	
	痘そう	
	南米出血熱	
	ペスト	
	マールブルグ熱	
	ラッサ熱	
	急性灰白髄炎	
	ジフテリア	
	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスに限る）	
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスに限る）	
	特定鳥インフルエンザ	
	新型インフルエンザ等感染症	
	新感染症	
［第２種］	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻しん	解熱後３日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消えるまで
	水痘（みずぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主な症状がなくなって２日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
［第３種］	コレラ	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと 認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	その他の感染症 (学校医その他の医師において感染のおそれがあり出席停止の措置が必要と認める感染症)※	

※第２種については、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでない。
※第３種のその他の感染症については、「出席停止期間証明書」に限る。（診断書は無効）

③　忌引によるもの（会葬礼状等の証明書類が必要）※忌引の適用される親族と日数

・１親等の親族（父母）の場合は連続した７日間まで（休日を含む）

・２親等の親族（祖父母・兄弟姉妹）の場合は連続した３日間まで（休日を含む）

・３親等の親族（曾祖父母・伯叔父母・甥姪）の場合は１日のみ

④　その他

教務部長，各学部長，短大部長，各学科長などの協議の結果，やむを得ないと認められた場合。

Ⅶ　学籍異動

休学をする場合は，事前にクラス担任または指導教員に相談すること。

休学の願い出は，月日をさかのぼって願い出ることはできない。休学期間の取扱については，教務課で説明を受けること。

１．休学・復学

⑴　疾病その他やむを得ない事由により３か月以上修学することのできない者は，保証人連署のうえ学長に願い出，その許可を得て休学することができる。

疾病による場合は，医師の診断書を添付すること。

⑵　休学中は，当該期間の単位を修得することはできない。

⑶　休学できる期間は休学願を提出する月の翌月以降，月初めから１か月単位で，当該年度末までである。

⑷　休学の期間は，１年を超えることができない。ただし，特別な事由がある場合は，引続き更に１年まで延長することができる。

⑸　休学の期間は，通算して４年を超えることができない。

⑹　休学の期間は，学則第４条第２項の在学年限に算入しない。

⑺　休学期間中は，学納金の一部が免除される（学則第42条）。

⑻　休学期間満了の場合又は休学期間中にその事由が消滅したときは，学長の許可を得て復学することができる。

２．退学・再入学

⑴　退学をしようとする者は，その事由を詳記し，保証人連署のうえ，学長に願い出，その許可を得なければならない。

前期末退学を希望する者は，9月30日
後期末退学を希望する者は，3月31日までに事前に担任又はゼミ指導教員に相談をし承諾を得た上で教務課に相談すること。

⑵　願いにより本学を退学した者又は学則第38条第１号により除籍された者が，再入学を希望するときは選考のうえ入学を許可することがある。

３．転学部・転学科

本学の他の学部に転学部または同一学部の他の学科に転学科を希望する者があるときは，選考のうえ許可することがある。

４．除　　籍

次に該当する者は，教授会の意見を聴き，大学教育研究評議会で審議し，学長が除籍する。

⑴　授業料その他の学納金の納付を怠り，督促してもなお納付しない者。

⑵　学則第４条第２項に定める在学年限を超えた者。

⑶　学則第36条第２項に定める休学期間を超えてなお修学できない者。

⑷　死亡または長期間にわたり行方不明の者。

⑸　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

５．復　　籍

除籍になった者が除籍通知後１年以内に未納の学納金を納付し，復籍の願い出があった場合には，大学教育研究評議会で審議し，学長が復籍を許可することがある。

除籍前に修得した授業科目及び単位数の全部又は一部をすでに修得したものとして認めることがある。この認定は教授会の意見を聴き学長が行う。

Ⅷ　試　　験

単位を修得するためには，履修登録した授業科目につき，その授業を受け（予習・復習・課題などの時間を含む），かつ本学で施行する試験に合格しなければならない。ただし，授業料，その他納付金の未納者は受験でき

ないことがある。また，履修登録していない科目を受験しても，単位を修得することはできない。

１．試験の方法

試験は，それぞれの授業科目に応じて筆記・口述・レポート・論文・作品の製作・実技等によって行う。

２．試験の種類

⑴　学期末試験

学期末試験は，原則として定期試験期間内に行われる。ただし，必要に応じ，試験の日時・場所等の調整を行うことがある。

試験を実施する授業科目は，日時・実施方法等をあらかじめ担当教員から教務課へ連絡のあったもののみ掲示する。

〈授業科目の不合格発表〉

卒業年次生のみ当該学年で履修したすべての科目について２月下旬教務課から学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。（卒業年次生とは，修業年限，修得単位の状況等から判断して，当該年度末に卒業可能な者）

⑵　追試験

追試験は，下記に示す病気その他やむを得ない事由により学期末試験を受験できなかった者に対して行う。ただし，欠席当日を含め３日以内に教務課へ連絡すること。

①　病気欠席（医師の診断書を提出のこと）

②　就職試験日時との重複（教務課の所定用紙にキャリアセンターの証明印を押したものを提出のこと）

③　忌引（父母は１週間以内，兄弟姉妹祖父母は３日間以内で，死亡を証明する書類（会葬礼状等）を提出のこと）

④　その他特別な事情により，教務部長が正当と認めた場合

（①～③の証明書類は，欠席の連絡日から１週間以内に教務課へ提出すること。）

⑶　再試験

・卒業年次生で，その年度の試験の結果，卒業に必要な単位のうち，10単位以内の不足がある場合に限り，**不足単位数の範囲内で**再試験を受けることが出来る。

なお再試験は，当該年度に履修した科目に限る。

・欠席が著しく多い（原則として授業回数の1/3以上）とき，試験を無断で欠席したり，授業態度，レポート等の提出が著しく悪いとき，再試験受験資格を失うことがある。これは，各授業科目の担当者が総合的に判断する。再試験受験資格の有無は，前期科目は成績表により，後期科目は不合格発表により各自確認すること。

・諸課程に関する科目の単位修得の場合は，上記再試験の規定によらない場合がある。

〈再試験手続〉

教務課所定の用紙に必要事項を記入し，押印の上，受験手数料１科目1,000円を添えて出願受付期間内に教務課へ申し込むこと。

再試験の日時は教務課より学内に掲示する。

卒業年次生の再試験の不合格者については，教務課より学内に授業科目ごとに学籍番号を掲示する。

３．レポートの提出

試験にかわるレポートの提出方法は，次の通りである。

⑴　本人が指定された場所（担当教員または教務課）に直接提出すること。

⑵　大学指定の表紙に必要事項を記入し，必ずホッチキスでとじて提出すること。

⑶　字数や表紙の有無などレポートの様式については，授業科目担当者の指示に従うこと。

⑷　提出の締切日時は厳守すること。（事務受付時間は月曜日～金曜日午前９時より午後４時45分まで。）

4．試験に関する注意事項

(1) 試験の欠席

試験を欠席する場合は，欠席当日を含め３日以内（土・日は除く）に必ず教務課へ電話で連絡すること。（TEL　086－271－8120）

※欠席連絡がない場合は，追試験の対象とならない。連絡方法は電話に限る。

(2) 受験資格者以外の受験の禁止

受験資格のない者（当該科目を履修登録していない者など）は受験できない。万一間違えて受験してもその成績は無効となる。

(3) 学生証の呈示

学生証のない者は受験できない。学生証は試験中，机上に呈示すること。

試験当日，学生証を忘れた者は，教務課で仮学生証（当日のみ有効）の交付を受けること。

(4) 座席の指定

試験室では指定された席に着くこと。

席が指定されていない場合は監督者の指示に従う。

(5) 所持品について

机上に置くことが出来る物は，持ち込みを許可されたものと筆記用具に限る。それ以外のものは各自の足下に置くこと。（原則として下敷きは許可しない）

スマートフォン・携帯電話については，電源を切り机上に置くこと。

(6) 答案持ち出しの禁止

試験室に入室した者は，必ず答案を提出すること。

無断で持ち帰ることは許されない。

(7) 遅刻及び退出

試験開始より20分経過後は入室できない。

監督者が必要と認めれば，試験開始後30分を経過したのち退出することが出来る。ただし，退出後の再入室は出来ない。

(8) 試験完了後の入室

試験が完了しても，答案回収の整理がすむまで試験室への入室は禁止する。

5．試験中の不正行為（P.69頁参照）

試験中，不正な行為が確認された場合，当該授業科目の試験日を含め，以後の受験を停止したうえ，これを学内に公示する。

不正行為をした者の当該学年における通年履修科目はすべて０点とする。半期の科目については不正行為の行なわれた学期に履修したものを０点とする。

Ⅸ　単位の修得及び学業成績

1．授業科目の授業を受け，かつ試験もしくはその他の方法による学習効果の判定において合格した者は，その授業科目の課程を修了したものと認められ，所定の単位が与えられる。

2．学業成績は，100点満点とし，60点以上を合格，60点未満を不合格とする。

3．成績の評語は，90点以上を秀，80点以上を優，70点以上を良，60点以上を可とし，60点未満を不可とする。

点　　数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	
成績証明書	秀	優	良	可	記載なし（不可）	
成　　績　　表	S	A	B	C	D	E
再試験受験資格（卒業年次生のみ）					有	無

4．再試験による成績は，最高60点までとする。

5．合格点を得た授業科目を再度受験することは許されない。ただし，重複履修可の科目は除く。

6．成績表は前期末及び後期末に本証人あてに送付する。また，学生本人には４月の履修指導時に配付する。

GPA（Grade Point Average）制度について

本学では，GPA制度を導入している。GPAとは，授業ごとの成績評価（秀，優，良，可，不可）に対応する点数（GP：Grade Point）を付与して，１単位あたりの平均値を算出し一定水準に到達しているかどうかを評価する制度のことである。

◎　GPA制度の目的

1．成績不振の学生を早期に発見し，担任制度や科目担当教員による適切な支援・指導を行う。

2．GPA評価により，自らの成績を客観的に自己評価し，学習意欲の向上を図る。

3．修得単位数だけでなく，GPA評価により個々の科目のレベルアップを図るよう喚起する。

4．GPAを目安にして，履修登録科目数の自主規制を促し，目標達成のための計画的履修を促す。

5．標語評価に加え，厳格なGPA評価により，総合的な学力の向上及び質の保証を図る。

◎　Grade Point（GP）は，以下の通りとする。

GPA制度による成績評価				
成　　績（評　　点）	評　　語（成績証明書）	評　　語（成績表）	G　P	判　　定
90～100点	秀	S	4	合　格
80～ 89点	優	A	3	
70～ 79点	良	B	2	
60～ 69点	可	C	1	
0～ 59点	不可	D・E（注）	0	不合格

（注）卒業年次生に限り不可科目については，一定の条件のもと再試験が実施されるが，E判定で不可になった場合は，再試験の受験資格がない。

◎　GPAの算出方法

$$\text{GPA}=\frac{\text{（履修登録科目で得たGP×その科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$$

対象科目については，各学部で定めるものとし，履修指導の際に説明する。

◎　GPAの利用法

GPAは，成績証明書や成績表には記載せず，別途配付する。

GPAによって学習状況の把握ができる。例えば，GPAが2以下の場合は，それぞれの科目で期待されている

達成度よりも低い状態が多いことを示しており、奮起が必要である。また、前の学期よりもGPAが下がっていれば、学習上に何らかの問題がある。このように、学期毎のGPA値を見ながら、自主的かつ意欲的な履修計画に利用できる。

GPAは，教員による修学指導の他，奨学金，表彰等の対象者の選考に利用されることがある。

◎　履修中止制度

一定期間受講し，「授業内容が期待したものではない」，「授業を理解するのに知識が不足している」等の理由により，履修を取り止めることが適当と判断した科目については，その当該科目の履修中止が認められることがある。ただし，必修科目，特定科目，集中講義科目や各学部･学科で指定した科目は，履修中止の対象とはならない。

履修中止の申請期間は，授業開始２週目終了前後の1週間を予定している。指示された期間内に教務課で手続きを行うこと。その場合テキストの返品は認められない。履修中止とした科目はGPA算出の対象とならないが，申請手続きをせずに履修放棄した場合は，その科目は不合格（GP値は0点）となり，GPA値が下がる。また，履修中止した科目の単位数は，履修登録上限単位数に含まれるので，計画的な履修を心がなければならない。

X　単位互換制度

本学では，大学コンソーシアム岡山との間に単位互換協定を結んでおり，下記に示す授業科目を４年間で10単位まで履修できる。これらの科目を修得した場合，卒業要件単位の自由選択として認定することができる。ただし，卒業に必要な単位数のうち定められている単位数は就実大学で開講されている科目から修得しなければならない。また，これらの科目を履修する場合は，１年間に履修登録できる48単位に含めることとする。履修希望者は，オリエンテーション期間行事表を確認し，説明会に必ず出席すること。履修申込期間を厳守のうえ，本学教務課に申し込むこと。

履修科目等の詳細は，「大学コンソーシアム岡山」のホームページ
http://www.consortium-okayama.jpを参照，または教務課へたずねること。

Ⅺ　文部科学大臣が定める学修による単位認定

本学に入学以前又は以後に，下表に示した検定試験等で一定の成績を修めた者に対し，申請に基づいて単位の認定を行う。この単位は，年間履修登録単位数の上限48単位の枠外とし，卒業要件単位として教務委員会が認定する。複数の試験による申請や同じ試験による複数回の申請も可能であるが，前回認定された単位を上回った場合のみ，その差の単位を追加認定する。

①

試験の種類＼認定単位数	2	4	6	8
実用英語技能検定試験（英検）	－	準１級	－	１級
TOEFL PBT TOEFL CBT（Test of English TOEFL iBT　　as a Foreign Language）	480～519点 157～189点 54～ 67点	520～559点 190～219点 68～ 82点	560～599点 220～249点 83～ 99点	600～677点 250～300点 100～120点
TOEIC（Test of English for International Communication)	550～619点	620～729点	730～859点	860～990点

※上限８単位（検定外国語１～４）まで認定を行う。

※外国語教育科目の単位として認定される。

②

試験の種類＼認定単位数	1	2
日本漢字能力検定	準１級	１級

※上限２単位（漢字検定１～２）まで認定を行う。

①②単位認定申請書　提出締切：（前期）７月末日，（後期）１月末日

※合格証明書又は成績証明書を添付のこと

提 出 先：教務課

Ⅻ　海外研修制度

１．短期海外研修制度

本学が企画する海外語学研修に参加し，研修修了証および所定の書類を提出すると，「異文化コミュニケーション１～４」２単位が認定される。

研修先および期間については，掲示をよく確認すること。

研修先：⑴　英国　カンタベリー・クライスト・チャーチ大学　（約３週間）

⑵　アメリカ　ハワイ大学マノア校　（約３週間）

⑶　オーストラリア　クイーンズランド大学　（約３週間）

⑷　台湾　清華大学　（約２週間）

⑸　韓国　祥明大学校　（約２週間）

参加資格：①通常の学生生活を送るのに支障のない健康状態であること

②授業出席率は80％以上であること

手　続：科目としての履修登録は行わず，「単位認定に関わる海外研修申込書」を総合受付カウンターに提出してください（研修申込書は総合受付カウンターに置いてあります）。

提出期日については，掲示をよく確認すること。

単位認定：短期海外研修終了後，科目の履修登録及び単位認定がなされる。

②　海外研修２単位は履修登録上限単位数48単位（諸課程に関する科目の単位数は除く）に含まない。

２．その他の短期海外研修

上記以外の研修で，夏期休業や春期休業を利用した個人参加の海外語学研修に対し，申請に基づいて本学の短期海外研修と同様に扱い，単位を認定する。３週間以上の研修を「異文化コミュニケーション１～４」２単位（６週間以上の場合は４単位）とし，合計８単位まで認定する。複数回の申請も可能である。

なお，この科目が対象とする海外研修は，本学との提携外の研修なので，研修中の安全等に関しては自己責任で行うこと（研修先との問題，研修中の事故等については，本学はいかなる責任を負うものでもない）。

この制度による単位取得のためには，研修出発の２ヶ月前までに所定の書類を国際交流センターに提出しなければならない。

申請書類：研修前　「単位申請書」,「研修実施計画書」(国際交流センターの定める書式), 研修先の「研修プログラム」
　　研修後　研修修了証または成績証明書（研修先),「研修報告書」(国際交流センターの定める書式)

申請提出先：本学国際交流センター

３．長期海外語学研修

本学と協定を結んでいる機関で長期（３ヵ月半～１年以内）語学研修を受け，所定のプログラムを修了すると，申請に基づいて本学の単位として認定する。研修実施年次は原則として１年後期から３年次とする。(※)

研 修 先：⑴　英国　ダラム大学　（６カ月）
⑵　英国　カンタベリー・クライスト・チャーチ大学　（１年以内）
（ただし，６ヵ月以上の場合，ビザ取得が必要である。）
⑶　米国　ハワイ大学マノア校　（１年以内）
⑷　米国　リンフィールド・カレッジ
（研修実施は後期のみ。リンフィールドは３学期制）
１学期15週（３ヵ月半），２学期30週（７ヶ月）
⑸　米国　カリフォルニア州立大学（ＣＳＵ）チコ校　（１年以内）
⑹　米国　カリフォルニア州立大学（ＣＳＵ）サンマルコス校　（１年以内）
⑺　カナダ　ビクトリア大学　（６ヶ月）
⑻　オーストラリア　クイーンズランド大学　（１年以内）
⑼　中国　上海師範大学　（６ヶ月）
⑽　韓国　群山大学　（１年以内）
⑾　韓国　公州大学　（１年以内）
⑿　韓国　祥明大学　（１年以内）

出願日時：後期研修は４月１日～４月28日　前期研修は10月１日～10月31日

申請書類：研修前　長期海外語学研修参加申込書，成績証明書，健康診断書
　　研修後　研修修了証及び成績証明書（研修先），研修報告書（国際交流センターの定める書式，提出期日については，掲示をよく確認すること。

申請提出先：本学国際交流センター

※研修プログラムの授業時間数に応じて単位を認定する。ただし，半期相当の場合，認定単位数は24単位を上限とし，１年以内（前期・後期）の場合は，認定単位数は48単位を上限とする。

総合教養教育科目

授業科目及び履修方法

Ⅰ　教養教育科目，外国語教育科目

1　授業科目表

(1)　総合教養教育科目

授業科目	2011年度生科目名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
学生生活概論		選	2	1	前	講義	1年次のみ
こころの健康科学		選	2	1	後	講義	
現代人とこころの障害		選	2	1	前	講義	
漢詩文の表現と心		選	2	1	前	講義	表現文化学科2単位以上▲▼
漢詩文の表現と思想		選	2	1	後	講義	
書道1		選	1	1	前	講義	表現文化学科1単位以上▼
書道2		選	1	1	後	講義	
茶道1		選	1	1	前	講義	
茶道2		選	1	1	後	講義	
日本文化論1		選	2	1	前	講義	
日本文化論2		選	2	1	後	講義	
ポピュラー音楽の歴史(★)		選	2	1	前	講義	★2014年度生以降
日本人の思想		選	2	1	後	講義	★2015年度生以前のみ
ヨーロッパ人の思想		選	2	1	後	講義	★2015年度生以前のみ
アジア人の思想		選	2	1	前	講義	★2015年度生以前のみ
日本美術史		選	2	1	後	講義	★2015年度生以前のみ
西洋美術史		選	2	1	前	講義	
東洋美術史		選	2	1	前	講義	
死生観の歴史		選	2	1	前	講義	
哲学の世界と歴史(★)		選	2	1	後	講義	★2012・2011年度生のみ
現代の哲学と思想		選	2	1	後	講義	
人類学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	
アジアの民族誌		選	2	1	後	講義	
地理学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	
心理学1	心理学の世界と歴史	選	2	1	前	講義	
心理学2	現代人のこころと行動	選	2	1	後	講義	
発想学(★)		選	2	1	後	講義	★2014年度生以降
倫理と価値観の諸相		選	2	1	前	講義	★2015年度生以前のみ
現代人の倫理と価値観		選	2	1	後	講義	
女性の生活と歴史		選	2	1	前	講義	

授業科目	2011年度生科目名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
現代の女性環境		選	2	1	後	講義	
人権の現代的課題a		選	2	1	後	講義	△
法学		選	2	1	後	講義	▼総合歴史学科のみ
日本国憲法a		選	2	1	前	講義	△
社会学の世界と歴史		選	2	1	前	講義	▼総合歴史学科のみ
社会学概論A	現代社会の諸問題	選	2	1	後	講義	
社会学概論B		選	2	1	前	講義	
基礎経済学	経済と生活	選	2	1	前	講義	
経済学概論	現代経済論	選	2	1	後	講義	
基礎経営論（★）		選	2	1	前	講義	★2013年度生以降
基礎会計学（★）		選	2	1	前	講義	★2015年度生以降
基礎マーケティング論（★）		選	2	1	後	講義	★2013年度生以降
金融システムと生活		選	2	1	前	講義	
生活に役立つ統計（★）		選	2	1	後	講義	★2014年度生以降
マスメディア論（★）		選	2	1	前	講義	★2014年度生以降
社会生活と儀礼		選	2	1	前	講義	
現代日本の企業		選	2	1	後	講義	
現代都市の魅力診断		選	2	1	前	講義	
地誌（★）		選	2	2	後	講義	★2012・2011年度生のみ
自然地理学		選	2	2	後	講義	▲総合歴史学科のみ
地理学概論（★）		選	2	2	前	講義	★2012・2011年度生のみ
健康と食品		選	2	1	前	講義	
健康と栄養		選	2	1	後	講義	
化学の世界と歴史		選	2	1	後	講義	
化学と環境問題		選	2	1	前	講義	
生命機能のシステム（★）		選	2	1	前	講義	★2013・2012・2011年度生のみ
生命と自然環境		選	2	1	後	講義	
人体の構造と機能		選	2	1	前	講義	
生命機能のプログラム		選	2	1	前	講義	
生命と生活の化学		選	2	1	後	講義	
病気と環境		選	2	1	後	講義	
いきものと物質		選	2	1	後	講義	
くすりと社会		選	2	1	前	講義	
コンピューターリテラシーa，b		選	2	1	前	講義	
情報と表現		選	2	1	後	講義	※ ※４科目のうち２単位以上△
情報と社会a，b		選	2	1	前･後	講義	
情報と文化a，b		選	2	1	前･後	講義	※

授業科目	2011年度生科目名	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
情報処理演習１		選	2	1	前	講義	４科目のうち２単位以上△
情報処理演習２		選	2	1	後	講義	
スポーツと健康		選	2	1	前	講義	２単位以上△
スポーツと社会		選	2	1	後	講義	
スポーツ１		選	1	1	前	演習	１単位以上△
スポーツ２ａ～ｄ		選	1	1	後	演習	
スポーツ３ａ，ｂ		選	1	1	前	演習	
スポーツ４ａ～ｃ		選	1	1	後	演習	
日本事情１		選	2	1	前	講義	外国人留学生・帰国子女適用
日本事情２		選	2	1	後	講義	
日本事情３		選	2	1	前	講義	
日本事情４		選	2	1	後	講義	
キャリアデザイン論A・B		選	2	2	前･後	講義	
キャリアデザイン論C		選	2	2	後	講義	
インターンシップ１		選	1	2		演習	
インターンシップ２		選	1	2		演習	
漢字検定１		選	1	1		演習	履修登録単位の上限（48単位）に含まない
漢字検定２		選	1	1		演習	
異文化コミュニケーション1		選	2	1		演習	
異文化コミュニケーション2		選	2	1		演習	
異文化コミュニケーション3		選	2	1		演習	
異文化コミュニケーション4		選	2	1		演習	
各資格課程専用科目	**教職・図書館司書・博物館学芸員・社会教育主事の各資格課程取得希望者のみ履修可**						
教職論（=教師論）（人文）		選	2	1	前	講義	教職
教育学概論（人文）		選	2	1	後	講義	教職・社会教育主事
教育心理学（人文･心理）		選	2	2	前	講義	教職
学校制度論	学校論	選	2	3	前	講義	教職
博物館概論		選	2	1	前	講義	博物館・社会教育主事
生涯学習概論Ⅰ		選	2	1	前	講義	博物館・図書館司書・社会教育主事
図書館概論		選	2	1	前	講義	図書館司書・社会教育主事

△印：教職必修
▼印：中一種免必修　　▲印：高一種免必修

「履修年次」は，履修可能年次を示す。上位年次生は，下位の「履修年次」の科目を履修することが出来る。

● **総合教養教育科目の履修について**

⑴　履修上の注意

履修登録にあたっては，「履修要項」を参考に，「授業科目時間割表」に示される科目の中から選ぶが，その際の留意事項を少し具体的に示す。

①　総合教養教育科目は授業科目表に示される科目の中から，20単位以上を履修しなければならない。

②　科目名におけるアラビア数字の１および３は前期，２および４は後期を示す。また，同一授業科目の後のアルファベット（小文字）のａ，ｂ，ｃ…は，授業科目の分割を示すので，重ねて履修することはできない。

③　履修登録前に実施した希望調査で，履修曜日・時限などを指定された科目（スポーツ，情報処理など）は，それ以外では，履修できない。

⑵　履修モデル

総合教養教育科目については，その大部分を１，２年次に履修することが望ましい。総合教養教育科目は人文系･社会系，自然･情報系科目に大別されるが，「現代社会を生きる」「グローバルな社会で活躍する」「いのちと健康を考える」「人生とキャリアデザイン」「豊かな感性を育む」の５項目で主題科目を開講している。それらを偏りなく履修し，グローバル社会に出て活躍できる一般教養を身につけてほしい。

■　**社会系科目の基礎を身につけたい**

「法学」「基礎経済学」「経済学概論」「社会学の世界と歴史」「社会学概論」などを履修する。

■　**自然科学の基礎を知りたい**

「化学の世界と歴史」「化学と環境問題」「健康と栄養」「健康と食品」「生命と自然環境」「人体の構造と機能」「生命機能のプログラム」などを履修する。

■　**パソコンやインターネットの知識・技能を身に付けたい**

①「高校時代の情報の授業についていけなかった」「パソコンについてはまったくの初心者だ」という人は補習的科目である「コンピュータリテラシー」を履修する。

②「WordやExcelを一通り使いこなせるようになりたい」「将来の仕事に役立つパソコン技能を身につけたい」という場合は「情報処理演習１」「情報処理演習２」を履修する。「１」から「２」へ順に受講することが望ましいが，自信のある人は「２」だけ履修してもよい。

③ネット上での情報の探し方や信頼できる情報源の見極め方，大学での勉強に必要な「情報の受信」に関する技能を身につけるには「情報と文化」を履修する。

④「パソコンで動画や音楽の作品作りをしてみたい」「プログラミングをしてゲームなどを作ってみたい」「情報発信や著作権に興味がある」という場合は「情報と表現」を履修する。

⑤「個人情報やネット社会の問題点について考えたい」「ロボットや人工知能，自動運転などに興味がある」「パソコンの仕組みや歴史を知りたい」という場合は「情報と社会」（講義科目無抽選）を履修する。

■　**一般の企業に就職して役に立つ知識を身につけたい**

２～３年次に，「金融システムと生活」「現代日本の企業」などを履修する。

■　**心身のバランスを取り，健康・体力の維持・増進を図りたい。**

実際に体を動かしたり，自分自身の体について考え適切に管理することを目的に，「スポーツ１～４」（実技），「スポーツと健康」「スポーツと社会」（講義）が開設されている。心身のバランスを図り，仲間と一緒に体を動かす楽しさを味わい，体力と健康の維持・増進に努めることで，活力のある学生生活を送ってほしい。そのためには４年間を通じて積極的に履修することが望ましい。

＜就実大学教養教育の目標＞

教養カリキュラムポリシー

グローバル社会で活躍できるように学問の裾野を広げ，様々な角度から物事を見ることのできる能力，自主的，総合的に考え，適確に判断する能力ならびに豊かな人間性を養い，自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる人材を育てる。

⑴　関心・意欲・態度を身につける

①　違った価値観や伝統，制度を持った異文化の相互関係を知り，深い認識を持つ。

②　人間や社会，自然，環境について深い関心を持ち，豊かな感受性を身につける。

③　自らの洞察を深め，生涯にわたって自己研鑽に努める態度を身につける。

④　高い倫理観と責任感を持ち，他者と協力して仕事を進める意欲・態度を養う。

⑵　知識・理解力を深め，思考・判断力を身につける

⑤　幅広い領域の知識を理解して，専門分野での学修に必要な基礎的知識と複合的な視点を持つ。

⑥　現代社会に関して多面的な知識・理解を持ち，体系的に考え，自らの見解を形成する。

⑦　健康で文化的な生活を営むために必要な知識と方法を修得し，自らの生活の質を高める。

⑧　学修の成果を評価・判断し，自らの生活や社会に還元する柔軟な発想力を身につける。

⑶　技能・表現力を身につける

⑨　日常生活に必要な，聞く・話す・読む・書く力を修得し，正確な意思の疎通を図る。

⑩　少なくとも一つの外国語を用いて，基礎的なコミュニケーションを行う。

⑪　情報及び情報手段を選択し，適切に活用するための基礎的な知識・技能を身につける。

⑫　知識・技能・情報を活用して，自ら構想・創造・表現する力を身につける。

総合教養教育科目カリキュラムマップ

		授業科目	教養教育の目標											
			関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主題科目	現代社会を生きる	現代都市の魅力診断	○	○				○						○
		金融システムと生活	○					○						
		情報と社会		○				○					○	
		社会生活と儀礼												
		生活に役立つ統計		○				○					○	
	グローバルな社会で活躍する	人類学の世界と歴史	○					○						○
		アジアの民族誌	○					○						○
		地理学の世界と歴史	○	○			○	○		○				
	いのちと健康を考える	こころの健康科学			○				○					○
		現代人とこころの障害		○				○	○					
		現代の哲学と思想												
		病気と環境		○			○		○					○
		スポーツと健康			○			○	○					

		授　業　科　目	教養教育の目標											
			関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
主題科目	人生とキャリアデザイン	キャリアデザイン論			○			○			○			
		社会学概論		○				○		○				
		基礎経営論（お金と生活）			○					○		○		
		マスメディア論			○			○					○	
		学生生活概論				○			○		○			
	豊かな感性を育む	茶道 1，2		○	○				○					○
		ポピュラー音楽の歴史		○				○	○					
		発想学(アイデアの生み出し方)			○			○						○
		スポーツと社会		○					○		○			
一般教養科目	人文科学系科目	心理学１		○	○									
		心理学２		○	○				○					
		現代人の倫理と価値観		○	○									
		日本文化論 1	○	○				○						
		日本文化論 2	○				○				○			
		女性の生活と歴史	○											
		漢詩文の表現と心	○	○										
		漢詩文の表現と思想	○		○									
		文章表現			○						○			○
		口頭表現			○			○						○
	社会科学系科目	人権の現代的課題		○		○		○						
		法学				○		○	○					
		日本国憲法	○			○		○						
		社会学の世界と歴史		○				○		○				
		基礎経済学			○			○						○
		経済学概論			○			○						○
		基礎会計学			○		○						○	
		現代の女性環境	○					○	○					
		自然地理学	○	○			○							
		現代日本の企業						○		○			○	
		基礎マーケティング論			○					○		○		
	自然科学系科目	健康と食品			○				○	○				
		健康と栄養			○				○	○				
		化学の世界と歴史		○			○		○					
		化学と環境問題		○			○		○					
		人体の構造と機能		○			○		○					
		生命機能のプログラム		○			○		○					

		授業科目	教養教育の目標											
			関心･意欲･態度				知識・理解力，思考・判断力				技能・表現力			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
一般教養科目	自然科学系科目	生命と自然環境		○					○				○	
		生命と生活の化学		○					○				○	
		いきものと物質		○		○			○					
		くすりと社会					○	○	○					
	スポーツ科目	スポーツ１				○			○					○
		スポーツ２				○			○					○
		スポーツ３				○			○					○
		スポーツ４				○			○					○
	情報科目	コンピューターリテラシー											○	
		情報と表現								○			○	○
		情報と文化					○		○				○	
		情報処理演習１			○				○				○	
		情報処理演習２											○	○
	資格関連科目	教職論（=教師論）				○	○	○						
		教育学概論		○			○	○						
		教育心理学		○			○	○						
		学校制度論				○	○	○						
		博物館概論		○				○					○	
		生涯学習概論Ⅰ					○	○	○					
		図書館概論			○			○					○	
	導入科目・技能科目・その他	書道 １			○		○							○
		書道 ２			○		○							○
		インターンシップ１			○	○								
		インターンシップ２			○	○								
		漢字検定 １			○									
		漢字検定 ２			○						○			
		異文化コミュニケーション１		○	○						○	○		
		異文化コミュニケーション２		○	○							○		
		異文化コミュニケーション３		○	○							○		
		異文化コミュニケーション４		○	○							○		
		日本事情１	○								○		○	
		日本事情２	○								○		○	
		日本事情３	○								○		○	
		日本事情４	○								○		○	

外国語教育科目

Ⅱ　外国語教育科目

(2)　外国語教育科目

	授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態		履修上の注意
表現文化学科・実践英語学科・総合歴史学科共通	General English1	選	1	1	前	講義		表現・歴史のみ必修クラス指定
	General English2	選	1	1	後	講義		
	General English3	選	1	2	前	講義		
	General English4	選	1	2	後	講義		
	検定外国語 1	選	2	1		講義		
	検定外国語 2	選	2	1		講義		
	検定外国語 3	選	2	1		講義		
	検定外国語 4	選	2	1		講義		
	ドイツ語文法入門1	選	1	1	前	講義		
	ドイツ語文法入門2	選	1	1	後	講義		
	ドイツ語講読入門1	選	1	1	前	講義		
	ドイツ語講読入門2	選	1	1	後	講義		
	ドイツ語中級 1	選	1	2	前	講義	◆	学科・学年指定に注意
	ドイツ語中級 2	選	1	2	後	講義	◆	
	ドイツ語中級 3	選	1	2	前	講義	◆	
	ドイツ語中級 4	選	1	2	後	講義	◆	
	フランス語文法入門1 a～c	選	1	1	前	講義		
	フランス語文法入門2 a・b	選	1	1	後	講義		
	フランス語講読入門1 a・b	選	1	1	前	講義		
	フランス語講読入門2 a～c	選	1	1	後	講義		
	フランス語中級1	選	1	2	前	講義	◆	
	フランス語中級2	選	1	2	後	講義	◆	
	フランス語中級3	選	1	2	前	講義	◆	
	フランス語中級4	選	1	2	後	講義	◆	
	中国語文法入門1 a～c・e	選	1	1	前	講義		
	中国語文法入門2 a・b・e	選	1	1	後	講義		
	中国語講読入門1 a・b・e	選	1	1	前	講義		
	中国語講読入門2 a～c・e	選	1	1	後	講義		
	中国語中級 1	選	1	2	前	講義	◆	
	中国語中級 2	選	1	2	後	講義	◆	
	中国語中級 3 (検定受験用)	選	1	2	前	講義	◆	
	中国語中級 4 (検定受験用)	選	1	2	後	講義	◆	
	ハングル文法入門1 a～c・e	選	1	1	前	講義		
	ハングル文法入門2 a・b・e	選	1	1	後	講義		
	ハングル講読入門1 a・b・e	選	1	1	前	講義		
	ハングル講読入門2 a～c・e	選	1	1	後	講義		

表現文化学科は，General English1～4必修，英語以外の外国語２単位以上必修。

総合歴史学科は，General English1～4必修，英語以外の外国語４単位以上必修。

	授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
表現文化学科・実践英語学科・総合歴史学科共通	ハングル中級1	選	1	2	前	講義	◆ 学科・学年指定に注意
	ハングル中級2	選	1	2	後	講義	◆
	ハングル中級3	選	1	2	前	講義	◆
	ハングル中級4	選	1	2	後	講義	◆
	日本語1	選	1	1	前	講義	外国人留学生・帰国子女適用
	日本語2	選	1	1	後	講義	
	日本語3	選	1	1	前	講義	
	日本語4	選	1	1	後	講義	
実践英語学科のみ	English Reading Ⅰ a～c	必	1	1	前	講義	実践英語学科は英語8単位以上必修。英語以外の外国語4単位以上必修
	English Reading Ⅱ a～c	必	1	1	後	講義	
	English Reading Ⅲ a～c	必	1	2	前	講義	
	English Reading Ⅳ a～c	必	1	2	後	講義	
	Oral Communication Ⅰ a～e	必	1	1	前	講義	
	Oral Communication Ⅱ a～e	必	1	1	後	講義	
	Oral Communication Ⅲ a～e	必	1	2	前	講義	
	Oral Communication Ⅳ a～e	必	1	2	後	講義	

◆印：重複履修可

「履修年次」は，履修可能年次を示す。上位年次生は，下位の「履修年次」の科目を履修することが出来る。

● **外国語教育科目の履修について**

(1) 履修上の注意

① 表現文化学科の学生は「General English１～４」と英語以外の外国語を２単位以上履修しなければならない。

実践英語学科の学生は「Oral Communication Ⅰ～Ⅳ」「English Reading Ⅰ～Ⅳ」と，英語以外の外国語を４単位以上履修しなければならない。

総合歴史学科の学生は「General English１～４」と英語以外の外国語を４単位以上履修しなければならない。

② 「Oral Communication」「English Reading」の科目名におけるローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）は難易度を示す。

③ 「General English」は１・２，３・４のように，前・後期引き続き履修するのが望ましい。

④ 「General English」は「General English１」から「General English４」までをそれぞれ１科目とし，１単位が修得できる。

⑤ 英語以外の外国語は，同一外国語の文法入門および講読入門を履修するのが望ましい。

⑥ 英語以外の外国語の中級１～４を履修するには，原則として同じ外国語の「文法入門２」または「講読入門２」を修得していることが必要である。

⑦ クラス指定の科目，及び履修登録前に実施した希望調査で，履修曜日・時限などを指定された科目は，それ以外では履修できない。

■ **基礎的な英語力をつけたい**

「General English １・２・３・４」（表現文化学科・総合歴史学科は必修科目）を履修する。

■ **英話力をさらに高めたい**

海外での語学研修「異文化コミュニケーション」に積極的に参加してほしい。

■ **英語以外の語学（ドイツ語，フランス語，中国語，ハングル）に触れたい**

文法入門と講読入門を併せて履修することが望ましい。

１年次　前期	○○語文法入門１，○○語講読入門１
後期	○○語文法入門２，○○語講読入門２
２年次以上	○○語中級１～４

他学科開放科目一覧

Ⅲ　他学部開放科目一覧

1　授業科目表

人文科学部からの開放科目

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
文章表現 e	選	2	1	前	講義	
文章表現 f	選	2	1	後	講義	
口頭表現 e	選	2	1	後	講義	
古典文学史	選	2	2	前	講義	
近現代文学史	選	2	2	後	講義	
日本語史	選	2	2	後	講義	
言語表現史	選	2	2	後	講義	
身体表現史	選	2	2	後	講義	
古典文学研究 1	選	2	2	前	講義	
古典文学研究 2	選	2	2	前	講義	
古典文学研究 3	選	2	2	後	講義	
近現代文学研究 1	選	2	2	前	講義	
近現代文学研究 2	選	2	2	前	講義	
近現代文学研究 3	選	2	2	前	講義	
日本語研究 1	選	2	2	後	講義	
日本語研究 2	選	2	2	前	講義	
表現創造研究 1	選	2	2	集中	講義	
表現創造研究 2	選	2	2	前	講義	
表現創造研究 3	選	2	2	集中	講義	
古典文学講義 1	選	2	3	後	講義	
古典文学講義 2	選	2	3	後	講義	
古典文学講義 3	選	2	3	前	講義	
近現代文学講義 1	選	2	3	後	講義	
近現代文学講義 2	選	2	3	後	講義	
近現代文学講義 3	選	2	3	前	講義	
日本語講義 1	選	2	3	前	講義	
日本語講義 2	選	2	3	後	講義	
表現創造講義 1	選	2	3	前	講義	
表現創造講義 2	選	2	3	前	講義	
表現創造講義 3	選	2	3	後	講義	
表現創造講義 4	選	2	3	前	講義	
異文化理解 1 A～C	選	2	3	前	講義	

他学科開放

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
異文化理解２Ａ・Ｂ	選	2	3	後	講義	
イギリス文化研究１	選	2	3	前	講義	
イギリス文化研究２	選	2	3	前	講義	
イギリス文化研究３	選	2	3	後	講義	
アメリカ文化研究１	選	2	3	前	講義	
アメリカ文化研究２	選	2	3	後	講義	
アメリカ文化研究３	選	2	3	後	講義	
地理学概論	選	2	2	前	講義	
地誌	選	2	2	後	講義	
哲学の世界と歴史	選	2	1	前	講義	
日本人の思想	選	2	1	後	講義	
ヨーロッパ人の思想	選	2	1	後	講義	
アジア人の思想	選	2	1	前	講義	
日本美術史	選	2	1	後	講義	
西洋美術史	選	2	1	前	講義	
東洋美術史	選	2	1	前	講義	
死生観の歴史	選	2	1	前	講義	
倫理と価値観の諸相	選	2	1	前	講義	
歴史人物の生と時代１Ｂ	選	2	1	後	講義	
歴史人物の生と時代２Ｂ	選	2	1	後	講義	
地域史特殊研究２Ａ	選	2	1	前	講義	
地域史特殊研究２Ｂ	選	2	1	後	講義	
地域史特殊研究２Ｃ	選	2	1	後	講義	
地域史特殊研究２Ｄ	選	2	1	前	講義	研修旅行参加が必須
地域史特殊研究２Ｅ	選	2	1	後	講義	研修旅行参加が必須
地域史特殊研究２Ｆ	選	2	1	前	講義	
地域史特殊研究２Ｇ	選	2	1	後	講義	
吉備地方文化特論１	選	2	1	前	講義	
吉備地方文化特論２	選	2	1	後	講義	
吉備地方文化特論３	選	2	1	後	講義	
吉備地方文化特論４	選	2	1	後	講義	
考古学の基礎	選	2	1	前	講義	
考古学の現在	選	2	1	後	講義	
古文書学の基礎	選	2	1	前	講義	
古文書学解読	選	2	1	後	講義	

教育学部からの開放科目

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
教育の歴史	選	2	1	前	講義	
現代教育の諸問題	選	2	1	前	講義	
社会福祉Ⅰ	選	2	1	前	講義	
社会福祉Ⅱ	選	2	1	前	講義	
保育者論	選	2	1	後	講義	
保育原理Ⅰ	選	2	1	前	講義	
児童福祉Ⅰ	選	2	1	前	講義	
精神保健	選	2	2	後	講義	社会福祉主事任用資格取得希望者に限る
看護学概論	選	2	1	前	講義	社会福祉主事任用資格取得希望者に限る
栄養学	選	2	2	後	講義	社会福祉主事任用資格取得希望者に限る
精神医学概論	選	2	3	前	講義	社会福祉主事任用資格取得希望者に限る
公衆衛生学	選	2	3	後	講義	社会福祉主事任用資格取得希望者に限る
衛生学	選	2	2	前	講義	医療秘書資格取得希望者に限る
解剖学	選	2	1・2	前･後	講義	医療秘書資格取得希望者に限る
生理学	選	2	2	後	講義	医療秘書資格取得希望者に限る

経営学部からの開放科目（2014年度生以降）

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
初級簿記	選	2	1	前	講義	
中級簿記	選	2	2	前	講義	
英文ビジネスプレゼンテーション入門	選	2	1	前	講義	
国際ビジネス入門	選	2	1	前	講義	
商業学入門	選	2	1	後	講義	
農業経済学入門	選	2	1	後	講義	
ホスピタリティ入門	選	2	1	前	講義	
経営史入門	選	2	1	後	講義	
経営戦略論入門	選	2	1	後	講義	
経営哲学入門	選	2	1	後	講義	
金融概論	選	2	1	前	講義	
証券市場論入門	選	2	1	後	講義	

２　他学部開放科目の履修について

(1)　履修上の注意

①　他学部開放科目（人文科学部，教育学部，経営学部からの開放科目）を履修し修得した単位は，自由選択科目として認められる。

②　他学部開放科目を履修する場合は，該当学部の時間割表でコマ位置等を確認し，他科目と同様にWeb上で履修申請を行うこと。

③　他学部開放科目も履修登録単位数の上限48単位に含まれるので，よく注意すること。

表現文化学科専門教育科目

就実大学表現文化学科専門教育の目標

⑴　関心・意欲・態度を身につける

①　言語と文化について広く関心と興味をもち、できるかぎり作品や現象に触れ、それを読み解くあるいは分析する姿勢をもつことができる。

②　他者の意見を尊重した上で、自分の意見を明示する姿勢をもつことができる。

③　言語と身体によるコミュニケーションに前向きに取り組む姿勢をもつことができる。

⑵　知識・理解力を身につける

④　古代から現代に至る日本文学について幅広い知識をもち、理解し、他者に的確に説明することができる。

⑤　古代から現代に至る日本語について幅広い知識をもち、理解し、他者に的確に説明することができる。

⑥　言語と身体による表現について幅広い知識をもち、理解し、他者に的確に説明することができる。

⑦　各分野の基礎資料について知り、またそれを収集する方法を身につける。

⑶　思考・判断力を身につける

⑧　他者との対話や議論を通して、自分の意見や表現を見直し、磨くことができる。

⑨　各分野の研究と創作において、その歴史的経緯と現状、問題点を踏まえた上で、課題に取り組むことができる。

⑩　学際的な視野から、作品や現象を捉え、評価することができる。

⑪　現代社会のニーズを確実に捉え、それを踏まえて新たな発想や意見を提示することができる。

⑷　技能・表現力を身につける

⑫　文章でも口頭でも、他者と感情や意見を適切に交換することができる。

⑬　問題設定から解決に至るまでの手順と方法を熟知し、対象や状況に即して実践することができる。

⑭　多様な表現ツールを適切に用いて、自分の思考や意見、計画を効果的に他者に示すことができる。

⑮　基礎知識・技能を駆使して、独創的な表現を提示することができる。

Ⅳ　表現文化学科　専門教育科目

1　授業科目表

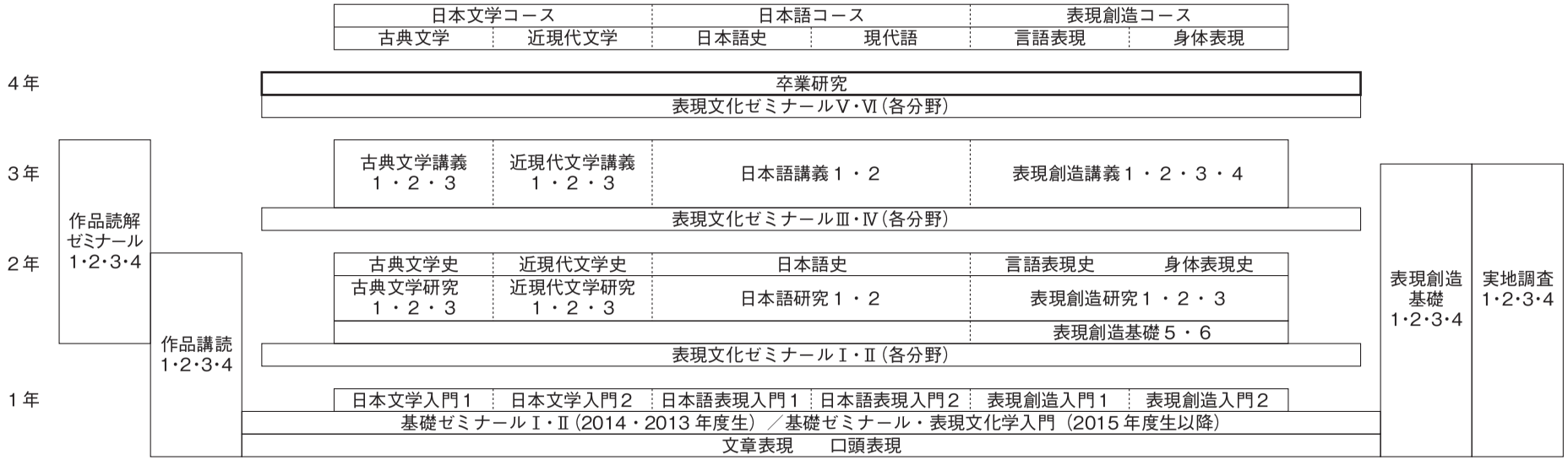
授業科目	2014－2011年度開講科目名（読替科目）	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
卒業研究		必	8	4	集中	講義	基礎ゼミナール１・２を再履修の場合，2014～2011年度生は基礎ゼミナール１→基礎ゼミナール 基礎ゼミナール２→表現文化学入門を履修
文章表現ａ～ｄ		必	2	1	前	講義	
口頭表現ａ～ｄ		必	2	1	後	講義	
基礎ゼミナール	基礎ゼミナール1	必	2	1	前	講義	
表現文化学入門	基礎ゼミナール2	必	2	1	後	講義	
日本文学入門１		選	2	1	前	講義	▲▼ ８単位以上選択必修
日本文学入門２		選	2	1	後	講義	▲▼
日本語表現入門１		選	2	1	前	講義	２単位以上▲▼
日本語表現入門２		選	2	1	後	講義	
表現創造入門１		選	2	1	前	講義	
表現創造入門２		選	2	1	後	講義	
作品講読１（★）		選	2	1	後	講義	★2013年度生以降のみ
作品講読２（★）		選	2	1	後	講義	★2013年度生以降のみ
作品講読３（★）		選	2	1	後	講義	★2013年度生以降のみ
作品講読４（★）		選	2	1	前	講義	★2013年度生以降のみ
表現創造基礎１		選	2	1	後	講義	
表現創造基礎２		選	2	1	前	講義	
表現創造基礎３		選	2	1	後	講義	
表現創造基礎４		選	2	1	後	講義	
実地調査１		選	1	1	集中	講義	
実地調査２		選	1	1	集中	講義	
実地調査３		選	1	1	集中	講義	
実地調査４		選	1	1	集中	講義	
古典文学史		選	2	2	前	講義	※▲▼ ６単位以上選択必修
近現代文学史		選	2	2	後	講義	※▲▼
日本語史		選	2	2	後	講義	※
言語表現史		選	2	2	後	講義	※
身体表現史		選	2	2	後	講義	※

授業科目	2014－2011年度開講科目名（読替科目）	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
古典文学研究1		選	2	2	前	講義	※ ８単位以上選択必修
古典文学研究2		選	2	2	前	講義	※
古典文学研究3		選	2	2	後	講義	※
近現代文学研究1		選	2	2	前	講義	※
近現代文学研究2		選	2	2	前	講義	※
近現代文学研究3		選	2	2	前	講義	※
日本語研究1		選	2	2	後	講義	※
日本語研究2		選	2	2	前	講義	※
表現創造研究1		選	2	2	集中	講義	※
表現創造研究2		選	2	2	前	講義	※
表現創造研究3		選	2	2	集中	講義	※
表現創造基礎5		選	2	2	後	講義	※
表現創造基礎6		選	2	2	前	講義	※
古典文学講義1		選	2	3	後	講義	※ ８単位以上選択必修
古典文学講義2		選	2	3	後	講義	※
古典文学講義3		選	2	3	前	講義	※
近現代文学講義1		選	2	3	後	講義	※
近現代文学講義2		選	2	3	後	講義	※
近現代文学講義3		選	2	3	前	講義	※
日本語講義1		選	2	3	前	講義	※
日本語講義2		選	2	3	後	講義	※
表現創造講義1		選	2	3	前	講義	※
表現創造講義2		選	2	3	前	講義	※
表現創造講義3		選	2	3	後	講義	※
表現創造講義4		選	2	3	後	講義	※
作品読解ゼミナール1(★)		選	2	2	後	講義	★2013年度生以降のみ
作品読解ゼミナール2(★)		選	2	2	前	講義	★2013年度生以降のみ
作品読解ゼミナール3(★)		選	2	3	前	講義	★2013年度生以降のみ
作品読解ゼミナール4(★)		選	2	3	後	講義	★2013年度生以降のみ
表現文化ゼミナールⅠ		必	2	2	前	演習	
表現文化ゼミナールⅡ		必	2	2	後	演習	
表現文化ゼミナールⅢ		必	2	3	前	演習	
表現文化ゼミナールⅣ		必	2	3	後	演習	
表現文化ゼミナールⅤ		必	2	4	前	演習	
表現文化ゼミナールⅥ		必	2	4	後	演習	

▲印：高一種免必修　　▼印：中一種免必修
※印：他学科開放

「履修年次」は，履修可能年次を示す。上位年次生は，下位の「履修年次」の科目を履修することが出来る。

2013年度生以降表現文化学科カリキュラムツリー



2013年度生以降表現文化学科カリキュラムマップ

授業科目	教育目標														
	関心・意欲・態度			知識・理解力				思考・判断力				技能・表現力			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
卒業研究				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文章表現		○	○					○				○			
口頭表現		○	○					○				○			
基礎ゼミナール(=基礎ゼミナール1)	○	○					○							○	
表現文化学入門(=基礎ゼミナール2)	○	○					○							○	
日本文学入門1	○			○						○					
日本文学入門2	○			○						○					
日本語表現入門1	○				○					○					
日本語表現入門2	○				○					○					
表現創造入門1	○					○				○					
表現創造入門2	○					○				○					
作品講読1	○			○						○					
作品講読2	○			○						○					
作品講読3	○			○						○					
作品講読4	○			○						○					
表現創造基礎1	○		○									○			○
表現創造基礎2	○		○									○			○
表現創造基礎3	○		○									○			○
表現創造基礎4	○		○									○			○
実地調査1	○									○	○		○		
実地調査2	○									○	○		○		
実地調査3	○									○	○		○		
実地調査4	○									○	○		○		
古典文学史		○		○					○	○					
近現代文学史		○		○					○	○					
日本語史		○			○				○	○					
言語表現史			○			○			○	○	○				
身体表現史			○			○			○	○	○				
古典文学研究1				○			○		○					○	
古典文学研究2				○			○		○					○	
古典文学研究3				○			○		○					○	
近現代文学研究1				○			○		○					○	
近現代文学研究2				○			○		○					○	
近現代文学研究3				○			○		○					○	
日本語研究1					○		○		○					○	
日本語研究2					○		○		○					○	
表現創造研究1						○	○		○					○	
表現創造研究2						○	○		○					○	
表現創造研究3						○	○		○					○	
表現創造基礎5			○									○		○	○
表現創造基礎6			○									○		○	○
古典文学講義1							○		○	○			○		
古典文学講義2							○		○	○			○		
古典文学講義3							○		○	○			○		
日本語講義1					○		○		○	○			○		
日本語講義2					○		○		○	○			○		
表現創造講義1						○	○		○	○				○	○
表現創造講義2						○	○		○	○				○	○
表現創造講義3						○	○		○	○				○	○
作品読解ゼミナール1				○	○				○					○	
作品読解ゼミナール2				○	○				○					○	
作品読解ゼミナール3				○	○				○					○	
作品読解ゼミナール4				○	○				○					○	
表現文化ゼミナールⅠ	○	○	○		○	○	○		○			○			
表現文化ゼミナールⅡ	○	○	○		○	○	○		○			○			
表現文化ゼミナールⅢ					○	○	○	○	○	○		○	○	○	
表現文化ゼミナールⅣ					○	○	○	○	○	○		○	○	○	
表現文化ゼミナールⅤ							○	○	○	○	○		○	○	○
表現文化ゼミナールⅥ							○	○	○	○	○		○	○	○

２　表現文化学科履修モデル

これは卒業要件単位を着実に取得してゆくためのモデルである。

必修科目のうち，☆入門群，研究群，講義群，ゼミナールには，多くの科目を開設している。各自の興味と目的にそって履修科目を決定すること。

また選択科目については一例を示したものであるので，自由に選択してかまわない。

１年次　38単位以上の履修が望ましい。

	科　目　名	開講期	必修（選必）単位	選択単位
総合教養教育科目			14	
外国語教育科目			4	
他学部他学科開放科目				
専門教育科目	文章表現	前	2	
	口頭表現	後	2	
	基礎ゼミナール／表現文化学入門	前・後	4	［4］
	☆入門群（表現文化学入門とは別に）	前・後	8	
	表現創造基礎１～４	前・後		

〈ポイント〉①入門群は広い分野にわたり履修するのが望ましい。

２年次　38単位以上の履修が望ましい。

	科　目　名	開講期	必修（選必）単位	選択単位
総合教養教育科目			6	
外国語教育科目			2	［2－8］
他学部他学科開放科目				
専門教育科目	☆史群	前・後	6	
	☆研究群	前・後	8	［4－10］
	☆表現文化ゼミナールⅠ・Ⅱ	前・後	4	
	その他	前・後	4	

〈ポイント〉①　表現文化ゼミナールⅠ・Ⅱはいま最も興味ある分野を選択する。同時に，当該分野の史群科目と研究群科目をあわせて履修するのが望ましい。

②　目的が定まりつつある場合，表現文化ゼミナール担当者から関連科目の情報を聞き，参考にする。他方，興味が広い場合，日本文学，日本語，表現創造，各コースのバランスを重視して履修すること。

③　教員免許の取得を目指す場合は，作品読解ゼミナール１・２を履修することが望ましい。

３年次　38単位以上の履修が望ましい。

	科　目　名	開講期	必修（選必）単位	選択単位
総合教養教育科目				
外国語教育科目				［４～10］
他学部他学科開放科目				
専門教育科目	☆講義群	前・後	8	
	☆表現文化ゼミナールⅢ・Ⅳ	前・後	4	［10～16］
	その他		6	

〈ポイント〉①　自由選択の枠が多くなる。表現文化ゼミナールⅢ・Ⅳと当該分野の講義群が核となるが，それ以外については，集中型か広域型か，自分の興味と目的と相談しながら有効に履修計画を立てること。
②　卒業要件単位にも注意。４年次は卒業研究と就職活動があり多忙となる。余裕をもって迎えることができるよう努めること。
③　教員免許の取得を目指す場合は，作品読解ゼミナール３・４を履修することが望ましい。

４年次　余裕をもって卒業要件単位を満たす履修が望ましい。

	科　目　名	開講期	必修（選必）単位	選択単位
専門教育科目	☆表現文化ゼミナールⅤ・Ⅵ	前・後	4	
	卒業研究		8	
	その他			［4］

〈ポイント〉①　卒業研究が中心となる。
②　卒業要件単位にはくれぐれも注意。また仮に卒業要件を満たしていても積極的に学ぶこと。

３　卒業研究に関する規定及び注意事項（詳細は４月に掲示）

⑴　予備登録

３年次の10月上旬の間に，所定の用紙に論文題目・指導教員名を記入し，指導教員の認印を受けて教務課へ提出すること。

注　卒業研究を予定する分野の表現文化ゼミナールを３年次で受講し，前期の間に担当教員から，卒業研究に関し積極的に指導を受けること。

予備登録は，自分の研究対象を明確にする為に行うものであるから，作者・作品又はその他事象を示す程度の題目を登録すること。

⑵　論文指導のゼミナール

３年次後期から４年次前期末にかけ論文指導のゼミナールの時間を設け，各自が選んだ指導教員のもとで具体的な論文指導が行われる。

⑶　本登録

４年次の５月上旬の間に，所定の用紙に論文題目を記入し，教務課へ提出すること。本登録をしなかった場合は，その年度での卒業研究の提出を認めない。

本登録以後論文提出までに，研究課題を変更することは時間的に不可能に近い。３年次後期の論文指導ゼミの時間を中心に然るべき準備をし，具体的な研究課題を登録すること。

⑷　中間発表

４年次の８月～10月上旬頃に行う。形式その他は別に通知する。

⑸　論文提出

４年次の12月中旬に教務課へ提出すること。

⑹　口頭試問

４年次の１月～２月上旬に行う。

⑺　論文枚数等

卒業研究の枚数は，四百字詰原稿用紙の場合は40枚以上とする。ワープロ原稿の場合は，これに準じる。

用紙は綴じて，所定の表紙を付して提出するものとする。なお，審査に必要であるので論文のコピーを一部添えて提出すること。

表現創造コースの創作について，および詳細については別途指導する。

⑻　保　　管

提出された卒業研究は，原則として教務課に於て保管する。ただし，指導教員から申し出がある場合は本人に返却することができる。

４　2017年度生　クラス担任表

学　　年	ク　　ラ　　ス　　担　　任
１　　年	入学後決定
２　　年	１年次のクラス担任
３・４年	ゼミナールの担当者

実践英語学科専門教育科目

2014年度生以降

Ⅴ　実践英語学科　専門教育科目

1　2014年度生以降授業科目表

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
卒業研究	必	8	4	集中	演習	
基礎ゼミナールⅠ　a～g	必	2	1	前	演習	
基礎ゼミナールⅡ　a～g	必	2	1	後	演習	
英文法Ⅰ　a～c	必	2	1	前	講義	
英文法Ⅱ　a～c	必	2	1	後	講義	★2015年度生以降は１年次履修 ★2014年度生は２年次履修
インターネット英語Ⅰ　a～c	必	2	1	前	講義	
インターネット英語Ⅱ　a～c	必	2	1	後	講義	
Extensive ReadingⅠ　a～c	必	2	2	前	講義	
Extensive ReadingⅡ　a～c	必	2	2	後	講義	
英語の発音　a～c	必	2	1	前	講義	
英語表現演習Ⅰ(集中特訓)	必	4	1	前	演習	週２回授業を行う
英語表現演習Ⅱ(集中特訓)	必	4	1	後	演習	週２回授業を行う
英語表現演習Ⅲ(集中特訓)	必	4	2	前	演習	週２回授業を行う
英語表現演習Ⅳ(集中特訓)	必	4	2	後	演習	週２回授業を行う
イギリス文化研究入門	必	2	1	後	講義	
アメリカ文化研究入門	必	2	1	前	講義	
通訳演習入門	選	2	1	前	演習	
翻訳演習入門	選	2	1	後	演習	
英語教育入門	選	2	1	前	講義	★2016年度生まで
英語学研究入門	選	2	1	後	講義	
ライティング演習Ⅰ　a～d	必	2	1	前	演習	
ライティング演習Ⅱ　a～d	必	2	1	後	演習	
ライティング演習Ⅲ	必	2	2	前	演習	
ライティング演習Ⅳ	必	2	2	後	演習	
検定英語Ⅰ(ＴＯＥＩＣ)	必	2	2	前	講義	
検定英語Ⅱ(ＴＯＥＩＣ)	必	2	2	後	講義	
検定英語Ⅲ(ＴＯＥＩＣ)	選	2	3	前	講義	
検定英語Ⅳ(ＴＯＩＥＣ)	選	2	3	後	講義	
児童英語教育法	選	2	2	前	講義	
児童英語	選	2	2	後	講義	
英語学研究１ａ	選	2	2	後	講義	
英語学研究１ｂ	選	2	2	前	講義	
英語学研究２(上級英文法)	選	2	2	前	講義	▲▼
英文講読Ⅰ	必	2	3	前	講義	
英文講読Ⅱ	必	2	3	後	講義	
英文講読Ⅲ	必	2	4	前	講義	
英文講読Ⅳ	必	2	4	後	講義	

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意	
言語文化講読１	選	2	1	前	演習	2017年度生以降	
言語文化講読２	選	2	1	後	演習		
言語文化講読３	選	2	1	前	演習		
言語文化講読４	選	2	1	後	演習		
英語コミュニケーション1（選抜）	選	2	3	前	講義	コース内必修	英語コミュニケーションコース
英語コミュニケーション2（選抜）	選	2	3	後	講義	コース内必修	
英語コミュニケーション3（選抜）	選	2	4	前	講義	３コースの中から１コース８単位以上選択必修	
英語コミュニケーション4（選抜）	選	2	4	後	講義		
英語コミュニケーション5（トピック別）	選	2	3	前	講義	◆	
英語コミュニケーション6（トピック別）	選	2	3	後	講義	◆	
英語コミュニケーション7（トピック別）	選	2	3	前	講義	◆	
英語コミュニケーション8（トピック別）	選	2	3	後	講義	◆	
異文化理解と交流１ A～C	選	2	3	前	講義	※◆ 2単位以上 ▲▼	英米文化コース
異文化理解と交流２ A・B	選	2	3	後	講義	※◆	
イギリス文化研究１	選	2	3	前	講義	※ 2単位以上 ▲▼ 学科必修2単位以上	
イギリス文化研究２	選	2	3	前	講義	※	
イギリス文化研究３	選	2	3	後	講義	※	
アメリカ文化研究１	選	2	3	前	講義	※ 2単位以上 ▲▼	
アメリカ文化研究２	選	2	3	後	講義	※	
アメリカ文化研究３	選	2	3	後	講義	※	
通訳演習１	選	2	3	前	演習		通訳・翻訳コース
通訳演習２	選	2	3	後	演習		
通訳演習３（ビジネス実務）	選	2	3	前	演習		
通訳演習４（ビジネス実務）	選	2	3	後	演習		
翻訳演習１	選	2	3	前	演習		
翻訳演習２	選	2	3	後	演習		
翻訳演習３（ビジネス実務）	選	2	3	前	演習		
翻訳演習４（ビジネス実務）	選	2	3	後	演習		
英語ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演習		
英語ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演習		
英語ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演習		
英語ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演習		

▲印：高一種免必修　▼印：中一種免必修
※印：他学科開放　◆印：重複履修可

「履修年次」は，履修可能年次を示す。上位年次生は，下位の「履修年次」の科目を履修することが出来る。

2017年度生実践英語学科　カリキュラムツリー

英語の基礎力
幅広い教養
専門英語への導入

→

コース別授業
英語の専門的知識
分析力と応用力の養成

		１年次	２年次	専門課程・各コースへ		３年次	４年次
専門教育科目	必修科目	English Reading Ⅰ English Reading Ⅱ Oral Communication Ⅰ Oral Communication Ⅱ 基礎ゼミナールⅠ(2014年度生以降) 基礎ゼミナールⅡ(2014年度生以降) 英文法Ⅰ 英文法Ⅱ（2015年度生以降） インターネット英語Ⅰ インターネット英語Ⅱ 英語の発音 ライティング演習Ⅰ ライティング演習Ⅱ 英語表現演習（集中指導）Ⅰ 英語表現演習（集中指導）Ⅱ イギリス文化研究入門 アメリカ文化研究入門	English Reading Ⅲ English Reading Ⅳ Oral Communication Ⅲ Oral Communication Ⅳ 英文法Ⅱ（2014年度生） Extensive Reading Ⅰ Extensive Reading Ⅱ ライティング演習Ⅲ ライティング演習Ⅳ 英語表現演習（集中指導）Ⅲ 英語表現演習（集中指導）Ⅳ 検定英語（TOEIC）Ⅰ 検定英語（TOEIC）Ⅱ	より高度な 専門性 → より高度な 分析力 → より高度な 応用力 →	必修科目	英語ゼミナールⅠ 英語ゼミナールⅡ 英文講読Ⅰ 英文講読Ⅱ	英語ゼミナールⅢ 英語ゼミナールⅣ 卒業研究 英文講読Ⅲ 英文講読Ⅳ
					選択科目	検定英語（TOEIC）Ⅲ 検定英語（TOEIC）Ⅳ	
					コース別選択科目	英語コミュニケーションコース	
						英語コミュニケーション １・２，５～８	英語コミュニケーション ３・４
						英米文化コース	
						異文化理解と交流１，２ イギリス文化研究１～３ アメリカ文化研究１～３	
						通訳・翻訳コース	
						通訳演習１～４ （３・４はビジネス実務） 翻訳演習１～４ （３・４はビジネス実務）	
	選択科目	英語教育入門 英語学研究入門 通訳演習入門 翻訳演習入門 言語・文化講読１～４	児童英語 児童英語教育法 英語学研究１ 英語学研究２				

授業科目	授業目標									
	関心・意欲・態度			知識・理解力		思考・判断力		技能・表現力		
	異文化理解	寛容性・共感力	洞察・研鑽能力	専門性・応用力	社会性・理解度	総合的判断力	柔軟な発想力	コミュニケーション力	情報分析・応用	想像力
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	○		○	○	○		○	○	○	○
英文法Ⅰ	○			○		○		○	○	
英文法Ⅱ	○			○		○		○	○	
インターネット英語Ⅰ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
インターネット英語Ⅱ	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語の発音	○			○				○		
Extensive ReadingⅠ	○		○	○	○	○		○	○	
Extensive ReadingⅡ	○		○	○	○	○		○	○	
英語表現演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語表現演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語表現演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
英語表現演習Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イギリス文化研究入門	○	○		○	○	○	○		○	○
アメリカ文化研究入門	○	○		○	○	○	○		○	○
通訳演習入門	○		○	○		○	○	○	○	○
翻訳演習入門	○		○	○	○	○	○		○	○
英語教育入門	○	○		○	○	○	○			○
英語学研究入門	○		○	○		○	○	○	○	
ライティング演習Ⅰ	○		○	○	○	○	○		○	○
ライティング演習Ⅱ	○		○	○	○	○	○		○	○
ライティング演習Ⅲ	○		○	○	○	○	○		○	○
ライティング演習Ⅳ	○		○	○	○	○	○		○	○
検定英語Ⅰ	○		○	○		○		○	○	
検定英語Ⅱ	○		○	○		○		○	○	
検定英語Ⅲ	○		○	○		○		○	○	
検定英語Ⅳ	○		○	○		○		○	○	
児童英語教育法	○	○	○	○	○	○	○	○		○
児童英語	○	○	○	○	○	○	○	○		○
英語学研究Ⅰ	○			○		○	○		○	○
英語学研究Ⅱ	○			○		○	○		○	○
英文講読Ⅰ	○		○	○		○	○		○	○
英文講読Ⅱ	○		○	○		○	○		○	○
英文講読Ⅲ	○		○	○		○	○		○	○
英文講読Ⅳ	○		○	○		○	○		○	○
言語・文化講読１	○		○	○		○		○		○
言語・文化講読２	○		○	○		○		○		○
言語・文化講読３	○		○	○		○		○		○
言語・文化講読４	○		○	○		○		○		○

授業科目	授業目標									
	関心・意欲・態度			知識・理解力		思考・判断力		技能・表現力		
	異文化理解	寛容性・共感力	洞察・研鑽能力	専門性・応用力	社会性・理解度	総合的判断力	柔軟な発想力	コミュニケーション力	情報分析・応用	想像力
英語コミュニケーション１	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション２	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション３	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション４	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション５	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション６	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション７	○		○	○	○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーション８	○		○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解と交流1	○	○		○	○	○	○		○	○
異文化理解と交流2	○	○		○	○	○	○		○	○
イギリス文化研究１	○	○		○	○	○	○		○	○
イギリス文化研究２	○	○		○	○	○	○		○	○
イギリス文化研究３	○	○		○	○	○	○		○	○
アメリカ文化研究１	○	○		○	○	○	○		○	○
アメリカ文化研究２	○	○		○	○	○	○		○	○
アメリカ文化研究３	○	○		○	○	○	○		○	○
通訳演習１	○		○	○		○	○	○	○	○
通訳演習２	○		○	○		○	○	○	○	○
通訳演習３	○		○	○		○	○	○	○	○
通訳演習４	○		○	○		○	○	○	○	○
翻訳演習１	○		○	○		○	○	○	○	○
翻訳演習２	○		○	○		○	○	○	○	○
翻訳演習３	○		○	○		○	○	○	○	○
翻訳演習４	○		○	○		○	○	○	○	○
英語ゼミナールⅠ	○		○	○	○		○	○	○	○
英語ゼミナールⅡ	○		○	○	○		○	○	○	○
英語ゼミナールⅢ	○		○	○	○		○	○	○	○
英語ゼミナールⅣ	○		○	○	○		○	○	○	○

２　実践英語学科履修モデル

以下に示すのは，卒業要件単位を着実に取得するためのモデルである。選択（選択必修）の科目は自分の興味に沿って決定すること。

１年次　　40単位以上の履修が望ましい。

	科　　目　　名	開講期	必修単位	選択(選必)単位
総合教養教育科目				10～14
外国語教育科目	English Reading Ⅰ・Ⅱ	前・後	2	
	Oral Communication Ⅰ・Ⅱ	前・後	2	
	英語以外の外国語	前・後	2	
専門教育科目	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	前・後	4	
	英文法Ⅰ	前	2	
	英文法Ⅱ	後	2	
	インターネット英語Ⅰ・Ⅱ	前・後	4	
	英語の発音	前	2	
	英語表現演習Ⅰ・Ⅱ	前・後	8	
	イギリス文化研究入門，アメリカ文化研究入門	後・前	4	
	ライティング演習Ⅰ・Ⅱ	前・後	4	

〈ポイント〉①１・２年次の必修科目はグレード制を取っているので，前後期とも不合格になると次年度の上位科目は履修できないので，注意すること。

２年次　　40単位以上の履修が望ましい。

	科　　目　　名	開講期	必修単位	選択(選必)単位
総合教養教育科目				2～10
外国語教育科目	English Reading Ⅲ・Ⅳ	前・後	2	
	Oral Communication Ⅲ・Ⅳ	前・後	2	
	英語以外の外国語	前・後	2	
専門教育科目	リスニング・英文読解	前・後	4	
	英語表現演習Ⅲ・Ⅳ	前・後	8	
	ライティング演習Ⅲ・Ⅳ	前・後	4	
	検定英語Ⅰ・Ⅱ	前・後	4	
	その他 「通訳演習入門」「翻訳演習入門」「児童英語教育法」「児童英語」より	前・後		２～８

〈ポイント〉①英米文化コース，通訳・翻訳コースの入門科目が履修できるようになる。
３年次からの通訳翻訳コースに興味のある人は，「通訳演習入門」「翻訳演習入門」を履修すること。
②３年次で外国人のゼミナールを希望する人は，１・２年次のライティング演習をすべて履修完了していることが望ましいので，落とさないようにすること。
③教職課程を履修している人は「児童英語教育法」，「児童英語」を積極的に履修すること。

３年次　　38単位以上の履修が望ましい。

	科　　目　　名	開講期	必修単位	選択(選必)単位
総合教養教育科目				２～６
外国語教育科目				
専門教育科目	英語ゼミナールⅠ・Ⅱ	前・後	4	
	英文講読Ⅰ・Ⅱ	前・後	4	
	英語コミュニケーションコース科目群	前・後		６～10
	英米文化研究コース科目群	前・後		６～10
	通訳・翻訳コース科目群	前・後		６～10
	その他			
	「検定英語Ⅲ・Ⅳ」「英語学研究」など	前・後		４～８

〈ポイント〉①「英語ゼミナールⅠ・Ⅱ」が入ってくる。自分の選択したゼミの内容に関連のある科目を積極的に履修すること。
②「英語コミュニケーションコース」,「英米文化コース」,「通訳・翻訳コース」の中から最低１コースを選び,卒業までに８単位以上履修することが必要である。「英語コミュニケーションコース」を選ぶ人は，英語コミュニケーション１・２を履修すること。
③学科必修単位として,「イギリス文化研究１～３」及び「アメリカ文化研究１～３」より１科目以上履修しなければならない。
④教職課程履修者は「英語学研究２」を履修すること。

４年次　　余裕を持って卒業要件単位を満たす履修が望ましい。

	科　　目　　名	開講期	必修単位	選択(選必)単位
専門教育科目	英語ゼミナールⅢ・Ⅳ	前・後	4	
	英文購読Ⅲ・Ⅳ	前・後	4	
	卒業研究	通　年	8	
	その他			
	各コース群より			２～６
	英語コミュニケーション３・４	前・後		

〈ポイント〉①「英語ゼミナールⅢ・Ⅳ」と卒業研究が中心となる。
②卒業要件単位にはくれぐれも注意。また仮に卒業要件単位を満たしていても,「英文講読」や「英語コミュニケーション」の上級クラスで英語運用能力の更なるステップアップを目指すこと。

３　卒業研究に関する規定及び注意事項（詳細は４月に掲示）

卒業研究は原則として卒業論文とし，担当教員が認めた場合は卒業制作も可とする。そして，それを提出して審査に合格した者に専門教育科目として８単位が与えられる。

卒業論文とは英米文化，英語教育及び英語学その他関連領域に関する研究をまとめたものとし，卒業制作は翻訳ならびに創作とする。

翻訳とは指導教員から与えられた課題を日本語あるいは英語に翻訳する作業であり，創作とはオリジナルな物語ないしエッセイを英語で書くことである。

⑴　３年次生に関して

３年次生の１月下旬の間に所定の用紙に必要事項を記入して教務課に提出し，卒業研究題目の予備登録をすること。

⑵　４年次生に関して

①　４年次生の４月に履修登録を行った後，５月上旬の間に所定の用紙に必要事項を記入して教務課に提出し，卒業研究題目の本登録をする。

② 卒業研究梗概は，４年次生の10月上旬の間に所定の用紙に必要事項を記入したものを添付して，教務課に提出する。

③ 卒業研究は，１月中旬までに教務課に提出すること。

⑶ 分量・形式

① 枚　　数　英文の場合

本文約8,000語（Ａ４版で25～30枚程度）

英文の梗概１～２枚程度

和文の場合

パソコンで作成し，Ａ４用紙に印刷したもの。書式は横書き，１行40字で36行を１ページとして入力し，分量は16,000字（12ページ）以上とする。必要に応じて脚注，引用文献リストをつけること。

英文の梗概２枚程度

② 表　　紙　実践英語学科所定のもの

③ 提出部数　３部作製の上２部提出

４　2017年度生　クラス担任表

学　年	ク　ラ　ス　担　任
１　年	「基礎ゼミナールⅠ（前期）・Ⅱ（後期）」の担当者
２　年	「English Reading Ⅲ，Ⅳ」の担当者
３・４年	「英語ゼミナール」の担当者

総合歴史学科専門教育科目

Ⅵ　総合歴史学科　専門教育科目

1　授業科目表

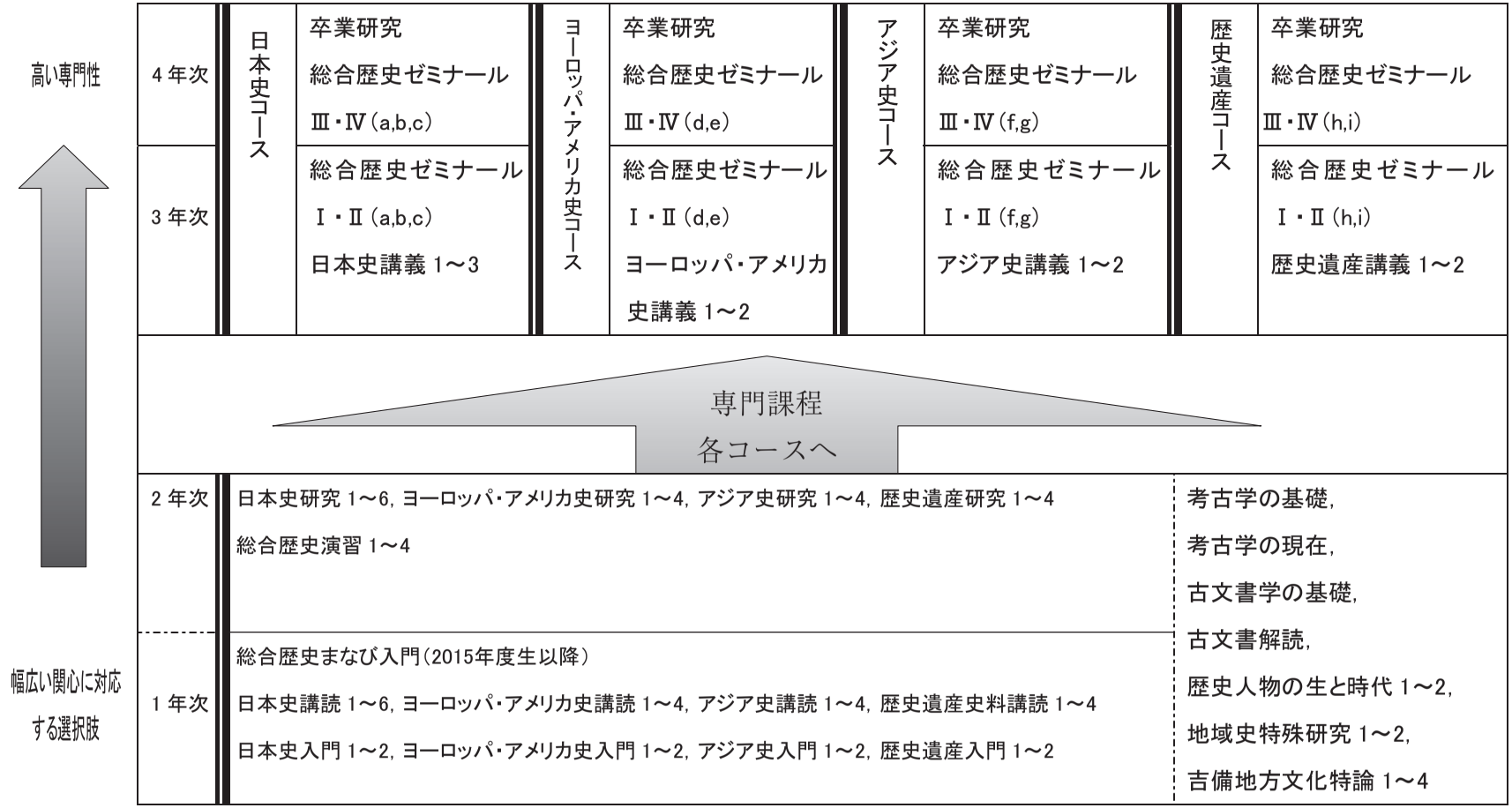
授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
卒業研究	必	8	4	集中	演習	
総合歴史まなび入門（★）	必	2	1	前	講義	★2015年度生以降
日本人の思想	選	2	1	後	講義	
ヨーロッパ人の思想	選	2	1	後	講義	
アジア人の思想	選	2	1	前	講義	
日本美術史	選	2	1	後	講義	
西洋美術史	選	2	1	前	講義	
東洋美術史	選	2	1	前	講義	
死生観の歴史	選	2	1	前	講義	
哲学の世界と歴史	選	2	1	前	講義	
倫理と価値観の諸相	選	2	1	前	講義	
日本史入門１	選	2	1	後	講義	▲▼ 10単位以上選択必修
日本史入門２	選	2	1	前	講義	▲▼
ヨーロッパ・アメリカ史入門１	選	2	1	前	講義	▲▼
ヨーロッパ・アメリカ史入門２	選	2	1	後	講義	▲▼
アジア史入門１	選	2	1	前	講義	▲▼
アジア史入門２	選	2	1	後	講義	▲▼
歴史遺産入門１	選	2	1	前	講義	
歴史遺産入門２	選	2	1	後	講義	
日本史講読１	選	2	1	前	講義	８単位以上選択必修
日本史講読２	選	2	1	後	講義	
日本史講読３	選	2	1	前	講義	
日本史講読４	選	2	1	後	講義	
日本史講読５	選	2	1	前	講義	
日本史講読６	選	2	1	後	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史講読１	選	2	1	前	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史講読２	選	2	1	後	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史講読３	選	2	1	前	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史講読４	選	2	1	後	講義	
アジア史講読１	選	2	1	前	講義	
アジア史講読２	選	2	1	後	講義	
アジア史講読３	選	2	1	前	講義	
アジア史講読４	選	2	1	後	講義	
歴史遺産史料講読１	選	2	1	前	講義	
歴史遺産史料講読２	選	2	1	後	講義	
歴史遺産史料講読３	選	2	1	前	講義	
歴史遺産史料講読４	選	2	1	後	講義	
地理学概論（※）	選	2	2	後	講義	※▲▼ １単位以上
地誌（※）	選	2	2	後	講義	※▲▼
哲学の世界と歴史（※）	選	2	2	後	講義	※▼「倫理と価値観の諸相」かいずれか１科目選択
歴史人物の生と時代１Ｂ	選	2	1	後	講義	※◆ ４単位以上選択必修（２年次以上での履修が望ましい。）
歴史人物の生と時代２Ｂ	選	2	1	後	講義	※◆
地域史特殊研究１Ｄ	選	2	1	前	講義	※◆
地域史特殊研究２Ａ	選	2	1	前	講義	※◆
地域史特殊研究２Ｂ	選	2	1	後	講義	※◆
地域史特殊研究２Ｃ	選	2	1	後	講義	※◆
地域史特殊研究２Ｄ	選	2	1	前	講義	※◆ 2D・2Eは研修旅行参加が必須
地域史特殊研究２Ｅ	選	2	1	後	講義	※◆

授業科目	必／選	単位数	履修年次	開講期	授業形態	履修上の注意
吉備地方文化特論１	選	2	1	前	講義	※
吉備地方文化特論２	選	2	1	後	講義	※
吉備地方文化特論３	選	2	1	後	講義	※
吉備地方文化特論４	選	2	1	後	講義	※
考古学の基礎	選	2	1	前	講義	※
考古学の現在	選	2	1	後	講義	※
古文書学の基礎	選	2	1	前	講義	※
古文書解読	選	2	1	後	講義	※
日本史研究１	選	2	2	前	講義	８単位以上選択必修
日本史研究２	選	2	2	後	講義	
日本史研究３	選	2	2	前	講義	
日本史研究４	選	2	2	後	講義	
日本史研究５	選	2	2	前	講義	
日本史研究６	選	2	2	後	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史研究１	選	2	2	前	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史研究２	選	2	2	後	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史研究３	選	2	2	前	講義	
ヨーロッパ・アメリカ史研究４	選	2	2	後	講義	
アジア史研究１	選	2	2	前	講義	
アジア史研究２	選	2	2	後	講義	
アジア史研究３Ａ・Ｂ	選	2	2	前	講義	
アジア史研究４Ａ・Ｂ	選	2	2	後	講義	
歴史遺産研究１	選	2	2	前	講義	
歴史遺産研究２	選	2	2	後	講義	
歴史遺産研究３	選	2	2	前	講義	
歴史遺産研究４	選	2	2	後	講義	
総合歴史演習１	選	2	2	後	講義	４単位以上選択必修
総合歴史演習２	選	2	2	前	講義	
総合歴史演習３	選	2	2	前	講義	
総合歴史演習４	選	2	2	後	講義	
日本史講義１Ａ・Ｂ	選	2	3	前	講義	◆ 12単位以上選択必修
日本史講義２Ｃ	選	2	3	前	講義	◆
日本史講義３Ｃ	選	2	3	後	講義	◆
ヨーロッパ・アメリカ史講義1Ａ・Ｂ	選	2	3	集中・後	講義	◆
ヨーロッパ・アメリカ史講義2Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ	選	2	3	前・後	講義	◆
アジア史講義１Ａ・Ｂ	選	2	3	後	講義	◆
アジア史講義２Ａ・Ｂ	選	2	3	前・後	講義	◆
歴史遺産講義１Ｃ	選	2	3	後	講義	◆
歴史遺産講義２Ｃ	選	2	3	後	講義	◆
総合歴史ゼミナールⅠ	必	2	3	前	演習	
総合歴史ゼミナールⅡ	必	2	3	後	演習	
総合歴史ゼミナールⅢ	必	2	4	前	演習	
総合歴史ゼミナールⅣ	必	2	4	後	演習	

(※)2014・2013年度生より専門科目
▲印：高一種免必修　　▼印：中一種免必修
※印：他学科開放　　◆印：重複履修可

「履修年次」は，履修可能年次を示す。上位年次生は，下位の「履修年次」の科目を履修することが出来る。

2014年度生以降
総合歴史学科
カリキュラムツリー



＊ここには専門教育科目のみあげている。ほかに、外国語教育科目と教養教育科目があり、いずれも１年次から履修開始し、専門への基礎をなす。

＊「総合歴史まなび入門」は必修科目とし，新入生は全員年次前期に履修する。

総合歴史学科　カリキュラムマップ

	探究心	寛容性・共感力	想像力	現地調査力	問題設定力	情報収集力	読解・分析力	思考力	構想力	論述力	情報発信力
歴史総合まなび入門	○				○	○	○	○	○	○	○
日本人の思想(2016年度生以降)	○	○	○					○			
ヨーロッパ人の思想(2016年度生以降)	○	○	○					○			
アジア人の思想(2016年度生以降)	○	○	○					○			
日本美術史(2016年度生以降)	○	○	○				○				
西洋美術史(2016年度生以降)	○	○	○			○		○			
東洋美術史(2016年度生以降)	○	○	○			○		○			
死生観の歴史(2016年度生以降)	○	○	○			○		○			
哲学の世界と歴史(2016年度生以降)	○	○	○					○			
倫理と価値観の諸相(2016年度生以降)	○	○	○								
日本史入門1	○	○	○		○		○				
日本史入門2	○	○	○		○						
ヨーロッパ・アメリカ史入門1	○	○	○		○						
ヨーロッパ・アメリカ史入門2	○	○	○		○						
アジア史入門1	○	○	○		○						
アジア史入門2	○	○	○		○						
歴史遺産入門1	○	○	○		○						
歴史遺産入門2	○	○	○		○						
日本史講読1	○		○			○	○				
日本史講読2	○		○			○	○				
日本史講読3	○		○		○	○	○				○
日本史講読4	○		○		○	○	○				○
日本史講読5	○		○				○				○
日本史講読6	○		○				○				○
ヨーロッパ・アメリカ史講読1	○		○				○				○
ヨーロッパ・アメリカ史講読2	○		○				○				○
ヨーロッパ・アメリカ史講読3	○		○			○	○		○	○	○
ヨーロッパ・アメリカ史講読4	○		○			○	○		○	○	○
アジア史講読1	○		○				○				○
アジア史講読2	○		○				○				○
アジア史講読3	○		○				○				○
アジア史講読4	○		○				○				○
歴史遺産史料講読1	○		○		○		○				○
歴史遺産史料講読2	○		○		○		○				○
歴史遺産史料講読3	○		○				○				○
歴史遺産史料講読4	○		○				○				○
歴史人物の生と時代1	○	○	○					○			
歴史人物の生と時代2	○	○	○					○			
地域史特殊研究1B	○	○	○					○			
地域史特殊研究1C	○	○	○					○			
地域史特殊研究2A	○	○	○					○			
地域史特殊研究2B	○	○	○					○			
地域史特殊研究2C	○	○	○					○			
地域史特殊研究2D	○	○	○	○				○			○

	探究心	寛容性・共感力	想像力	現地調査力	問題設定力	情報収集力	読解・分析力	思考力	構想力	論述力	情報発信力
地域史特殊研究2E	○	○	○	○				○			○
吉備地方文化特論1					○	○	○	○			
吉備地方文化特論2					○	○	○	○			
吉備地方文化特論3					○	○	○	○			
吉備地方文化特論4					○	○	○	○			
考古学の基礎						○	○	○			
考古学の現在						○	○	○			
古文書学の基礎						○	○	○			
古文書解読						○	○	○			
日本史研究1							○	○			
日本史研究2							○	○			
日本史研究3							○	○			○
日本史研究4							○	○			○
日本史研究5					○	○	○	○	○		○
日本史研究6					○	○	○	○	○		○
ヨーロッパ・アメリカ史研究1					○	○	○	○	○		
ヨーロッパ・アメリカ史研究2					○	○	○	○	○		
ヨーロッパ・アメリカ史研究3					○	○	○	○	○		○
ヨーロッパ・アメリカ史研究4					○	○	○	○	○		○
アジア史研究1					○		○	○	○		
アジア史研究2					○		○	○	○		
アジア史研究3					○	○	○	○			○
アジア史研究4		○	○		○	○		○	○		
歴史遺産研究1						○	○	○	○	○	○
歴史遺産研究2			○		○	○		○			
歴史遺産研究3			○		○	○	○	○	○		
歴史遺産研究4			○		○	○	○	○	○		
総合歴史演習1			○		○	○	○	○	○		
総合歴史演習2			○		○	○	○	○	○		
総合歴史演習3			○		○	○	○	○	○	○	○
総合歴史演習4				○	○			○	○		
日本史講義1	○	○	○		○			○	○		
日本史講義2	○	○	○		○			○	○		
日本史講義3	○	○	○		○			○	○		
ヨーロッパ・アメリカ史講義1	○	○	○		○			○	○		
ヨーロッパ・アメリカ史講義2	○	○	○		○			○	○		
アジア史講義1	○	○	○		○			○	○		
アジア史講義2	○	○	○		○			○	○		
歴史遺産講義1	○	○	○		○			○	○		
歴史遺産講義1	○	○	○		○			○	○		
総合歴史ゼミナールⅠ					○	○	○	○	○	○	○
総合歴史ゼミナールⅡ					○	○	○	○	○	○	○
総合歴史ゼミナールⅢ					○	○	○	○	○	○	○
総合歴史ゼミナールⅣ					○	○	○	○	○	○	○

２　総合歴史学科履修モデル

１年次

＊年間**40単位以上**履修すること（「入門」10単位以上＋「講読」８単位以上＋他の科目）

SYLLABUS（授業計画）の説明を必ずよく読んで，自分の目的にあうものを選択すること。

①　専門教育科目

〈日本史コースの基礎科目〉
日本史入門１
日本史入門２
日本史講読１・２
日本史講読３・４
日本史講読５・６

〈ヨーロッパ・アメリカ史コースの基礎科目〉
ヨーロッパ・アメリカ史入門１
ヨーロッパ・アメリカ史入門２
ヨーロッパ・アメリカ史講読１・２
ヨーロッパ・アメリカ史講読３・４

〈アジア史コースの基礎科目〉
アジア史入門１
アジア史入門２
アジア史講読１・２
アジア史講読３・４

〈歴史遺産コースの基礎科目〉
歴史遺産入門１
歴史遺産入門２
歴史遺産史料講読１・２
歴史遺産史料講読３
歴史遺産史料講読４

＊2015年度生より，必修科目「総合歴史まなび入門」を１年次前期に履修する。

＊選択必修科目の**「日本史入門」「ヨーロッパ・アメリカ史入門」「アジア史入門」「歴史遺産入門」**から，10単位以上選択履修する。同じく選択必修科目の**「日本史講読」「ヨーロッパ・アメリカ史講読」「アジア史講読」「歴史遺産史料講読」**からは，計８単位以上選択履修する。

＊上記**「入門」**と**「講読」**の選択にあたっては，自分の専攻コースを想定することが求められる。ただしコース間の垣根は低いので，１年次ではなるべく幅広く学ぶことが期待される。３年次で専攻ゼミナールを決めるまで，コースは変更できる。

＊選択した**「講読」**のうち一つの担当教員が，１年次の担任となる。担任の**「講読」**は前期・後期つづけて履修することが望ましい。

＊**「歴史人物の生と時代」，「地域史特殊研究」，「吉備地方文化特論」**，及び**「考古学」・「古文書学」**関連科目は，一般的には２年次以上での履修が望ましい。

ただし，日本史コース希望者は，１，２年次で**「古文書学の基礎」**と**「古文書解読」**を必ず履修しなければならない。

②　総合教養教育科目・外国語教育科目

＊学科クラス指定されたGeneral English（水曜日３時限開講予定）を前・後期，必ず履修すること。その他の外国語も２単位以上選択履修すること。また，スポーツ系の科目をぜひ履修してほしい。

＊アジア史コースで中国史を希望する者は，１・２年次に中国語を履修すること。

＊歴史学に関わる科目も複数開講されるので，SYLLABUS（授業計画）で授業内容を確認して積極的に選択履修すること。

③　資格関連科目

希望する資格に関連して，１年次生で受講できる科目があれば，必ず履修すること。

２年次

＊年間**40単位以上**履修すること。**「日本史研究」**，**「ヨーロッパ・アメリカ史研究」**，**「アジア史研究」**，**「歴史遺産研究」**の中から合計８単位以上選択履修する。選択した「研究」のうち一つの担当教員が，２年次の担任となる。**担任教員**の**「研究」**は前後期つづけて受講することが望ましい。

「総合歴史演習」を自分の所属コースの科目を含めて４単位以上履修すること。

３年次

＊年間**40単位程度**履修すること。**「総合歴史ゼミナールⅠ・Ⅱ」**の中から１科目を選択し，前後期続けて受講すること。総合歴史ゼミナールの担当教員が前後期を通じて担任となる。

４年次

＊余裕をもって卒業要件単位を満たす履修が望ましい。**「総合歴史ゼミナールⅢ・Ⅳ」**の中から１科目を選択し，前後期続けて受講すること。

３　卒業研究に関する規定及び注意事項（詳細は４月に掲示）

⑴　予備登録

３年次生は10月上旬の指示された期間に，所定の用紙に研究題目を記入し，指導教員の認印を受けて教務課へ提出すること。

⑵　本 登 録

４年次生は５月上旬の指示された期間に，所定の用紙に研究題目を記入し，指導教員の認印を受けて教務課へ提出すること。

⑶　卒業研究提出

12月中旬に教務課へ提出すること。

⑷　注意事項

○卒業研究の分量は，本文と注の字数の合計が16,000字以上でなければならない。その字数を目次の左下に明記すること。

○手書きの場合は，黒かブルーブラックのインクを用いる。

○原稿には，ページ毎に通し番号を付す。

○注は，本文の最後にまとめる。

○図表と参考文献は，注のうしろに添える。ただし，卒業研究の字数には含めない。

○卒業研究は所定のファイルに卒業研究表紙を付けて提出する。

⑸　審　　査

卒業研究の審査は，４年次の１月下旬に実施する。

⑹　保　　管

卒業研究は，審査を終了した後，原則として学生に返却する。

４　2017年度生　クラス担任表

学　年	クラス担任
１　年	講読の担当者
２　年	研究の担当者
３・４年	ゼミナールの担当者